

大学評価 学位授与

機構ニュース

*National Institution for Academic Degrees and
University Evaluation*

第 30 号

平成 15 年 6 月発行



小平新施設竣工記念式典（H15. 5. 8）

主な記事

- | | |
|-----------------------|----------------|
| ◆小平新施設への移転について ……………3 | ◆機構の窓 ……………21 |
| ◆小平新施設竣工記念 ……………4 | ◆就任挨拶 ……………33 |
| ◆大学評価事業の状況 ……………6 | ◆転任挨拶 ……………37 |
| ◆学位授与事業の状況 ……………10 | ◆教職員一覧 ……………38 |

目 次

| | |
|---------------------------------------|----|
| ◆小平新施設への移転について（竣工記念式典式辞より） | |
| ○大学評価・学位授与機構長 木村 孟 | 3 |
| ◆小平新施設竣工記念 | |
| ○小平新施設竣工記念式典 | 4 |
| ○小平新施設竣工記念祝賀会 | 5 |
| ○「小平新施設竣工記念」パンフレットの作成 | 5 |
| ◆大学評価事業の状況 | |
| ■平成13年度着手の大学評価事業 | |
| ○平成13年度着手の大学評価の評価結果について | 6 |
| ■平成14年度着手の大学評価事業 | |
| ○平成14年度着手の大学評価の実施状況について | 7 |
| ■大学評価に関する各種セミナー等の開催 | |
| ○シンポジウム「大学評価モデルを求めて：ヨーロッパの試み」を開催 | 8 |
| ○講演会「大学マネージメント改革 英国から学ぶこと」を開催 | 9 |
| ◆学位授与事業の状況 | |
| ■短期大学・高等専門学校卒業生、専門学校修了者等に対する学士の学位授与関係 | |
| ○1,802人に学士の学位を授与 ー平成14年度10月期申請分ー | 10 |
| ■認定課程（各省庁大学校）修了者に対する学位授与関係 | |
| ○16人に博士の学位を授与 ー大学院博士課程相当の課程修了者ー | 11 |
| ○885人に学士の学位を授与 ー学部相当の課程修了者ー | 11 |
| ■認定専攻科関係 | |
| ○新たに24専攻を認定 ー平成15年度ー | 11 |
| ○認定専攻科の教育の実施状況等の審査 | 12 |
| ○「言語聴覚障害学」の単位修得の専攻基準を制定 | 13 |
| ■各省庁大学校認定課程関係 | |
| ○各省庁大学校認定課程の教育の実施状況等の審査 | 14 |
| ■これまでの学位授与・専攻科認定の状況等 | |
| ○学位授与の状況 | 15 |
| ○各省庁大学校の課程の認定状況 | 16 |
| ○短期大学及び高等専門学校専攻科の認定状況 | 17 |
| ■平成15年度学位授与事業関係 | |
| ○平成15年度学士の学位授与申請受付期間及び試験日程 | 18 |
| ○学士の学位授与制度及び申請方法等関連の刊行物 | 18 |
| ○平成15年度学位授与関係審査スケジュール | 19 |
| ■「JABEEに関する研究会」を開催 | 20 |
| ◆機構の窓 | |
| ○遠山文部科学大臣、機構を訪問 | 21 |
| ○会議の開催状況 | 22 |
| ○研究紀要「大学評価」第1号・第2号の発行 | 25 |
| ○「大学評価・学位授与機構概要」の発行 | 25 |
| ○規則の制定等 | 26 |
| ○委員の異動等 | 26 |
| ○人事異動 | 27 |
| ○海外渡航一覧 | 31 |
| ◆就任挨拶 | |
| ○評価研究部教授 荻上 紘一 | 33 |
| ○評価研究部教授 木村 靖二 | 34 |
| ○評価研究部教授 森 敏 | 35 |
| ○評価研究部助手 野澤 孝之 | 36 |
| ◆転任挨拶 | |
| ○前評価研究部教授 喜多 一 | 37 |
| ◆教職員一覧 | 38 |

小平新施設への移転について（竣工記念式典式辞より）

大学評価・学位授与機構長

木 村 孟



平成十三年から建築中でありましたこの新施設は、文部科学省を初め関係各機関の皆様方並びに工事関係の方々の深い御理解と御支援を持ちましてここに完成いたしました。

大学評価・学位授与機構は、平成三年七月に前身である学位授与機構として、神奈川県横浜市緑区長津田町の東京工業大学長津田キャンパス内の一部を借用し、業務を開始しました。

その後、平成十二年四月に大学評価・学位授与機構へと改組拡充されたことに伴い、東京都千代田区一ツ橋の学術総合センタービルの一部と文京区大塚の筑波大学大塚地区の一部を借用し、三カ所に分散して学位授与事業及び大学評価事業を展開して参りましたが、この度、この小平の地に本機構の建物が完成したことにより、これまでの不便が解消され、ここに本機構の教職員が総力を結集して、機構に課せられた使命を果たし得る体制が施設面でも整ったことになり、誠に喜びとするところでございます。

さて、平成三年七月の本機構の創設当初から実施しております学位授与事業は、高等教育段階の様々な学習の成果を評価し、大学、大学院の修了者と同等の水準にあると認められる者に対して、学位授与の途を開いたものでありますが、これまでの十二年間にわたる事業展開により、二万四千人を超える人々に対し学位を授与いたしました。このことは、本事業がその目的である生涯学習体系への移行や高等教育機関の多様な発展に一定の役割を果たしてきたことの証であり、今後とも我が国における高等教育段階での学習機会の多様化等に一層貢献できるよう努力して参りたいと存じます。

また、平成十二年四月の改組により、本機構に新たに付加された大学評価事業は、大学等が競争的な環境の中で個性輝く機関として一層発展するよう、その教育研究活動等の状況や成果を多面的に評価することにより、大学等が行っている教育研究活動等の改善に資するとともに、評価結果を社会に公表す

ることにより、公共的機関としての諸活動について、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進することを目的として、平成十二年度から試行的に実施して参りました。この三月には平成十三年度着手の評価を終え、平成十二年度着手分に続き、その結果をとりまとめ、公表したところでございます。

科学技術や社会・経済・文化のグローバル化が急速に進展する中で、我が国の知の創造と継承の拠点である大学が、国際的競争力を備え、我が国社会の各方面の期待に積極的に応えていくためには、その改革を進めていくことが急務であり、その中でも大学評価が果たす役割は極めて大きいと認識しているところであります。各大学におかれましてもこのような認識を共有していただき、本機構が実施する大学評価事業に、真摯に対応していただいていることに対して、この場をお借りしまして、深く感謝申し上げます。

本機構としては、関係の皆様からの御意見を十分承りながら、進化する評価システムとして更に改善に努力して参りたいと考えております。

また、現在、本機構においては、国立大学法人の教育研究面に関する評価や公私立大学を含む認証評価及び法科大学院の認証評価等に積極的に対応することにより、諸外国と比較するとまだまだ未成熟である我が国の大学評価全体の発展向上に貢献していくことが、機構に課せられた使命を果たすことになるとの認識の下、これまで培ってきた経験を活かし新しい評価システムの構築に向けて、検討を行っているところでございます。

現在、国会においては、国立大学法人法案関連六法案の一つとして、本機構の独立行政法人大学評価・学位授与機構法案についても審議がなされております。

このような状況の中で、本機構に期待される役割は益々大きくなっており、この小平の新施設の完成を期に、教職員一同、決意を新たにして我が国の高等教育の発展のため、最善を尽くして参る所存でございます。

引き続き御指導と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

小平新施設竣工記念

大学評価・学位授与機構は、新施設が東京都小平市に竣工したことを記念して、平成15年5月8日（木）に、「小平新施設竣工記念式典・祝賀会」を挙行了しました。

○小平新施設竣工記念式典

文部科学省から間宮文部科学審議官、清水大臣官房審議官らをはじめ、学内外の関係者約200人が出席された中、正面玄関でテープカットを行いました。

引き続き、3階会議室で式典が開かれました。始めに木村機構長が式辞を述べ、間宮文部科学審議官が大臣祝辞を代読し、石一橋大学長、前田小平市長が祝辞を述べられました。次に、岡文部科学省文教施設部技術課長が工事概要を説明し、施工業者へ感謝状の贈呈が行われた後、井村総合科学技術会議議員外からの祝電が披露されました。



式辞を述べる木村機構長



大臣祝辞を代読する間宮文部科学審議官



祝辞を述べる石一橋大学長



祝辞を述べる前田小平市長



工事概要を説明する岡文部科学省文教施設部技術課長

○小平新施設竣工記念祝賀会

式典終了後、5階会議室で祝賀会が開催されました。木村機構長による感謝の挨拶の後、岡本東京学芸大学長と清水大臣官房審議官が祝辞を述べられ、文教施設部技術参事官の発声による乾杯により、約1時間半にわたり和やかな歓談が行われ、最後に田中学校法人根津育英会学園理事長（前機構長）の挨拶で、盛会のうちに終了しました。



木村機構長による挨拶



祝辞を述べる岡本東京学芸大学長



祝辞を述べる清水文部科学省大臣官房審議官



高技術参事官による乾杯の発声

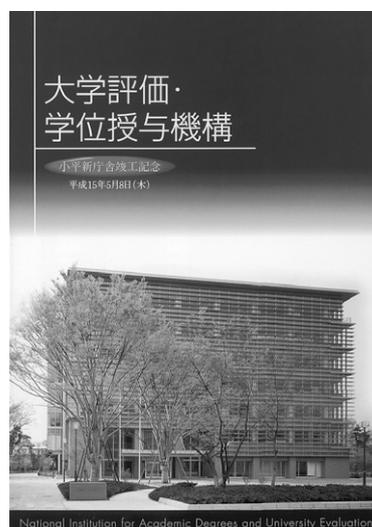


田中学校法人根津育英会学園理事長の挨拶

○「小平新施設竣工記念」パンフレットの作成

小平新施設の建物構成、1階エントランスホールのアートワーク等、機構周辺の風景を紹介する、「小平新施設竣工記念」パンフレットを作成しました。

この記念誌は、式典・祝賀会の出席者に資料として配布しました。



大学評価事業の状況

平成13年度着手の大学評価事業

○平成13年度着手の大学評価の評価結果について

平成13年度に着手した大学評価の評価結果については、各大学等からの「意見の申立て」を踏まえ、対象大学等ごとに作成した『評価報告書』として、3月25日（火）開催の大学評価委員会において確定し、当該大学等及び設置者（文部科学省）へ通知しました。

この『評価報告書』は、「対象機関の概要（現況及び特徴）」、「テーマに関するとらえ方」（全学テーマ別評価のみ）、「目的及び目標」、「評価項目ごとの評価結果」、「評価結果の概要」、「意見の申立て及びその対応」、「特記事項についての所見」の構成で取りまとめています。

また、評価結果を分かりやすく社会に示すため、

評価結果の全般的な状況を示すとともに、機構の評価の役割と評価法の解説、評価の実施を通じて認識された課題等を記載した『平成13年度着手の大学評価の評価結果について』を作成しています。

これらについては、機構のウェブサイト(<http://www.niad.ac.jp/hyouka/index.htm>)をご覧ください。

その他、機構では評価対象大学等に対して、平成13年度着手の大学評価に関する全般的な意見について照会を行いました（3月27日（木）～4月30日（水））。

この照会結果については、後日機構ウェブサイトに掲載する予定です。

全学テーマ別評価

- 「教養教育」
- 「研究活動面における社会との連携及び協力」

分野別教育評価

- 法学系
- 教育学系
- 工学系

分野別研究評価

- 法学系
- 教育学系
- 工学系

全学テーマ別評価

「教養教育」

| | | | | | |
|----------|---------|----------|----------|----------|----------|
| 北海道大学 | 北海道教育大学 | 室蘭工業大学 | 小樽商科大学 | 帯広畜産大学 | 旭川医科大学 |
| 北見工業大学 | 弘前大学 | 岩手大学 | 東北大学 | 宮城教育大学 | 秋田大学 |
| 山形大学 | 福島大学 | 茨城大学 | 図書館情報大学 | 筑波大学 | 宇都宮大学 |
| 群馬大学 | 埼玉大学 | 千葉大学 | 東京大学 | 東京医科歯科大学 | 東京外国語大学 |
| 東京学芸大学 | 東京農工大学 | 東京芸術大学 | 東京工業大学 | 東京商船大学 | 東京水産大学 |
| お茶の水女子大学 | 電気通信大学 | 一橋大学 | 横浜国立大学 | 新潟大学 | 長岡技術科学大学 |
| 上越教育大学 | 富山大学 | 富山医科薬科大学 | 金沢大学 | 福井大学 | 福井医科大学 |
| 山梨大学 | 山梨医科大学 | 信州大学 | 岐阜大学 | 静岡大学 | 浜松医科大学 |
| 名古屋大学 | 愛知教育大学 | 名古屋工業大学 | 豊橋技術科学大学 | 三重大学 | 滋賀大学 |
| 滋賀医科大学 | 京都大学 | 京都教育大学 | 京都工芸繊維大学 | 大阪大学 | 大阪外国語大学 |
| 大阪教育大学 | 兵庫教育大学 | 神戸大学 | 神戸商船大学 | 奈良教育大学 | 奈良女子大学 |
| 和歌山大学 | 鳥取大学 | 鳥根大学 | 鳥根医科大学 | 岡山大学 | 広島大学 |
| 山口大学 | 徳島大学 | 鳴門教育大学 | 香川大学 | 香川医科大学 | 愛媛大学 |
| 高知大学 | 高知医科大学 | 福岡教育大学 | 九州大学 | 九州芸術工科大学 | 九州工業大学 |
| 佐賀大学 | 佐賀医科大学 | 長崎大学 | 熊本大学 | 大分大学 | 大分医科大学 |
| 宮崎大学 | 宮崎医科大学 | 鹿児島大学 | 鹿児島体育大学 | 琉球大学 | |

TOP

「研究活動面における社会との連携及び協力」

| | | | | | |
|----------------|-----------|--------------|-----------|--------------|---------------|
| 北海道大学 | 北海道教育大学 | 室蘭工業大学 | 小樽商科大学 | 帯広畜産大学 | 旭川医科大学 |
| 北見工業大学 | 弘前大学 | 岩手大学 | 東北大学 | 宮城教育大学 | 秋田大学 |
| 山形大学 | 福島大学 | 茨城大学 | 図書館情報大学 | 筑波大学 | 宇都宮大学 |
| 群馬大学 | 埼玉大学 | 千葉大学 | 東京大学 | 東京医科歯科大学 | 東京外国語大学 |
| 東京学芸大学 | 東京農工大学 | 東京芸術大学 | 東京工業大学 | 東京商船大学 | 東京水産大学 |
| お茶の水女子大学 | 電気通信大学 | 一橋大学 | 横浜国立大学 | 新潟大学 | 長岡技術科学大学 |
| 上越教育大学 | 富山大学 | 富山医科薬科大学 | 金沢大学 | 福井大学 | 福井医科大学 |
| 山梨大学 | 山梨医科大学 | 信州大学 | 岐阜大学 | 静岡大学 | 浜松医科大学 |
| 名古屋大学 | 愛知教育大学 | 名古屋工業大学 | 豊橋技術科学大学 | 三重大学 | 滋賀大学 |
| 滋賀医科大学 | 京都大学 | 京都教育大学 | 京都工芸繊維大学 | 大阪大学 | 大阪外国語大学 |
| 大阪教育大学 | 兵庫教育大学 | 神戸大学 | 神戸商船大学 | 奈良教育大学 | 奈良女子大学 |
| 和歌山大学 | 鳥取大学 | 鳥根大学 | 鳥根医科大学 | 岡山大学 | 広島大学 |
| 山口大学 | 徳島大学 | 鳴門教育大学 | 香川大学 | 香川医科大学 | 愛媛大学 |
| 高知大学 | 高知医科大学 | 福岡教育大学 | 九州大学 | 九州芸術工科大学 | 九州工業大学 |
| 佐賀大学 | 佐賀医科大学 | 長崎大学 | 熊本大学 | 大分大学 | 大分医科大学 |
| 宮崎大学 | 宮崎医科大学 | 鹿児島大学 | 鹿児島体育大学 | 琉球大学 | 北陸先端科学技術大学院大学 |
| 奈良先端科学技術大学院大学 | 総合研究大学院大学 | 政策研究大学院大学 | 国文学研究資料館 | 国立極地研究所 | 宇宙科学研究所 |
| 国立遺伝学研究所 | 統計数理研究所 | 国際日本文化研究センター | 国立天文台 | 統合科学研究所 | 岡崎国立共同研究機構 |
| 高工エネルギー加速器研究機構 | 国立情報学研究所 | 国立民族学博物館 | 国立歴史民俗博物館 | メディア教育開発センター | |

TOP

機構ウェブサイトに掲載した評価結果（全学テーマ別評価）

平成14年度着手の大学評価事業

○平成14年度着手の大学評価の実施状況について

平成14年度着手の大学評価については、各大学等の「目的及び目標に関する事前調査回答」（4月15日提出期限）を、機構の大学評価委員会及び専門委員会で審議し、その調査結果を取りまとめ、各大学等へフィードバックしました。

この事前調査により、全学テーマ別評価においては、大学等が作成する自己評価の字数制限、機構が

作成する評価報告書の様式を変更しました。変更内容の詳細については機構のウェブサイト（<http://www.niad.ac.jp/hyouka/index.htm>）の下記枠内をご覧ください。

今後、大学等から提出された自己評価書（7月末提出期限）に基づき、書面調査及び評価区分に応じてヒアリング又は訪問調査を実施します。

大学評価・学位授与機構 National Institution for Academic Degrees and University Evaluation

機構の概要 機構からのお知らせ 大学評価 学位授与 調査研究 情報提供

実施計画等 | ▶ 全学テーマ別評価 | 分野別教育評価 | 分野別研究評価 | 各種様式 | 大学評価説明会関係 | 意見照会

一覧へ戻る

**「国際的な連携及び交流活動」
(平成14年度着手)**

- ・PDFファイルを使用しています。
- ・アドビ社から無料配布されているacrobatリーダーのインストールが必要です。
→<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep.html>
- ・Web上で見ることができますが、表示に時間がかかることがあります。
ダウンロード(ファイルに保存)してから参照することをおすすめします。

| | |
|-------------------------------|---|
| 実施方針等 | 自己評価実施要項の平成13年度着手から平成14年度着手への主な変更点(PDFファイル)(16KB) |
| 自己評価実施要項 新旧対照表(PDFファイル)(48KB) | 評価実施手引書 新旧対照表(PDFファイル)(55KB) |
| 自己評価実施要項(改訂版)(PDFファイル)(382KB) | 評価実施手引書(改訂版)(PDFファイル)(208KB) |

評価作業マニュアル 評価結果報告書

過去のファイル

- ・自己評価実施要項(改訂前)(PDFファイル)(361KB)
- ・評価実施手引書(改訂前)(PDFファイル)(184KB)

Copyright (C) 1998, 大学評価・学位授与機構, All Rights Reserved.

大学評価に関する各種セミナー等の開催

○シンポジウム「大学評価モデルを求めて：ヨーロッパの試み」を開催

去る平成15年2月22日、独立行政法人経済産業研究所（RIETI）の主催によりRIETI政策シンポジウム「How to Evaluate a University and What For? ～大学評価モデルを求めて：ヨーロッパの試み～」が、経済産業省及び文部科学省の後援、大学評価・学位授与機構の協力により、国際連合大学ウ・タント国際会議場にて開催されました。

当日は、まず、ヨーロッパの大学評価の制度設計やその実践に深い知見を有するリュック・ウェーバー教授（ジュネーブ大学）及びジョージ・ベルヘーゲン教授（ブラッセル自由大学）の両教授より基調講演があり、主にヨーロッパ大学協会（EUA）が実施している大学審査プログラムについての話がありました。



ウェーバー教授



ベルヘーゲン教授

こうしたヨーロッパの事例を踏まえたうえで、「大学評価のモデルを求めて」と題するパネルディスカッションを行いました。原山RIETIファカルティフェローのもと、平澤政策研究大学院大学教授、池上会津大学長、板東文部科学省大臣官房人事課長、

青木RIETI所長及び木村機構長の各パネリストから、大学評価に関するそれぞれの見解を述べて頂き、今後の日本版評価システムをどう構築するかについて意見交換が行われました。



なお、このシンポジウムの実施概要報告、配布資料、映像配信は、RIETIのホームページ(URL：<http://www.rieti.go.jp/jp/events/03022201/report.html>)にて公開されております。

○講演会「大学マネージメント改革 英国から学ぶこと」を開催

平成15年5月19日（月）、教育コンサルタントの島中祥（はたけなか さち）氏をお迎えして、英国での大学マネージメント改革についての講演会を開催いたしました。



英国では、高等教育を取り巻くグローバルな変化に対応すべく、1980年代から大学改革が行われてきました。経済の停滞や、社会から隔離され非効率な運営をしていた大学への不満などを背景に、いわゆる「象牙の塔」から、教育・研究面で社会のニーズに応える大学が求められるようになったのです。政府主導の高等教育システム改革であること、研究志向・教育志向など多様な大学を包括したシステムであることなど、英国と日本には類似する点が多々あり、その上で英国の経験はこれから行われるであろう日本の高等教育改革にも大いに参考になりうるということでした。

英国のこれまでの改革としては、80年代前半での高等教育に対する予算の大幅削減、1985年ののジャレットレポート、算定法式（Formula-based）ファンディングの採用、RAE（Research Assessment Exercise: 研究評価）の実施、高等教育機関（HEFCE）の独立法人化と統合・改廃、教育の質保証機関としてのQAA（Quality Assurance Agency）の設置などがあります。これにより、就学人口の急激な増加、大学の多様化、研究組織だけでなく研究内容ごとの競争体制が生まれるなどの結果がもたらされたとのことです。

英国の大学マネージメントにおける主な変化として挙げられたのは、以下のものです。

- 1) 意思決定：明確な戦略・方向性の確立、迅速な組織レベルでの意思決定システム
- 2) 財務管理：マネージメント・アカウントの重要性、

アカデミック・プランと財務企画の統合、財務の分権化

- 3) 管理運営体制：利害関係のない外部の人間を最高意思決定機関に多数組み入れること、理事会と学長との関係・役割の境界
- 4) 効率化の必要性：ニーズを反映した教育プログラムの作成・改廃、教官の時間の有効利用、空き建物・スペースの活用
- 5) 人事管理：自らの役割を適格に理解し責任を果たすための環境作り、文化・組織的文脈を考えたマネージメント手法
- 6) 事務改革：大学に関するプロとしての事務、サポートであることとのバランス



以上のことから、複数の手法の有効性、さまざまな大学環境・キャパシティに対してそれぞれに解決方法が必要であること、その中でも進むべき方向性にはある程度の共通項が見られることなどを踏まえ、これからの日本の大学改革について、改革に必要な知識・情報を生み出す中央組織の役割、政府の方針を明確に打ち出すことなどの重要性について提言をいただきました。

講演後は、英国の現状や大学改革の成功・失敗例について、質疑応答及び意見交換が活発に行われました。

学位授与事業の状況

短期大学・高等専門学校卒業生、専門学校修了者等に対する学士の学位授与関係

○1,802人に学士の学位を授与 —平成14年度10月期申請分—

平成14年度10月期に学士の学位授与申請のあった短期大学・高等専門学校卒業生及び専門学校修了者等1,987人のうち、1,802人に対し学士の学位が授与されました。

今回の学士の学位授与については、関係各専門委員会で行われた修得単位の審査及び学修成果・試験の審査の結果に基づき、平成15年2月13日（木）開催の学位審査会において審査が行われました。

＜平成14年度10月期申請者数及び授与者数＞

| 専攻分野 | 専攻区分 | 申請者数 | 授与者数 |
|-------|---------|------|------|
| 文 学 | 国語国文学 | 10人 | 9人 |
| | 英語・英米文学 | 3 | 2 |
| | 独語・独文学 | 1 | 0 |
| | 歴史学 | 7 | 4 |
| | 宗 教 学 | 2 | 2 |
| 教 育 学 | 教 育 学 | 112 | 107 |
| 神 学 | 神 学 | 1 | 1 |
| 社 会 学 | 社会福祉学 | 2 | 0 |
| 教 養 | 地 域 研 究 | 9 | 9 |
| | 科学技術研究 | 1 | 1 |
| 社会科学 | 社 会 科 学 | 2 | 1 |
| 法 学 | 法 学 | 2 | 2 |
| 経 済 学 | 経 済 学 | 2 | 2 |
| 商 学 | 商 学 | 1 | 1 |
| 経 営 学 | 経 営 学 | 6 | 6 |
| 理 学 | 数学・情報系 | 1 | 1 |
| | 物理学・地学系 | 1 | 1 |
| | 生物学系 | 2 | 1 |
| | 総合理学 | 2 | 2 |
| 看 護 学 | 看 護 学 | 134 | 105 |
| 保健衛生学 | 検査技術科学 | 44 | 43 |

| 専攻分野 | 専攻区分 | 申請者数 | 授与者数 |
|-------|---------|-------|-------|
| 保健衛生学 | 臨床工学 | 2人 | 2人 |
| | 放射線技術科学 | 103 | 100 |
| | 理学療法学 | 24 | 24 |
| | 作業療法学 | 16 | 16 |
| 鍼灸学 | 鍼灸学 | 6 | 6 |
| 栄養学 | 栄 養 学 | 256 | 223 |
| 工 学 | 機 械 工 学 | 250 | 233 |
| | 電気電子工学 | 287 | 276 |
| | 情報工学 | 51 | 47 |
| | 応用化学 | 89 | 85 |
| | 生物工学 | 14 | 14 |
| | 材料工学 | 19 | 19 |
| | 土木工学 | 92 | 90 |
| 建築学 | 58 | 53 | |
| 芸術工学 | 芸 術 工 学 | 31 | 31 |
| 農 学 | 農 学 | 14 | 13 |
| 家政学 | 家 政 学 | 2 | 0 |
| 芸術学 | 音 楽 | 73 | 58 |
| | 美 術 | 251 | 208 |
| 体 育 学 | 体 育 学 | 4 | 4 |
| 合 計 | | 1,987 | 1,802 |

認定課程（各省庁大学校）修了者に対する学位授与関係

○16人に博士の学位を授与

－大学院博士課程相当の課程修了者－

平成14年9月に博士の学位授与申請のあった防衛医科大学校医学教育部医学研究科修了者16人全員に博士（医学）の学位が授与されました。

医学・薬学専門委員会医学部会での論文審査及び試験の結果に基づき、平成15年2月13日（木）開催の学位審査会で審査の結果、学位授与が決定されました。平成15年2月25日（火）には学位記授与式が行われ、機構長から、学位記を手にした修了者に対しお祝いと温かい激励の言葉が送られました。また、今回初めて2名の女性の方に博士の学位が授与されました。

<博士の学位授与申請者数及び授与者数>

| 認定課程名 | 専攻分野 | 申請者数及び授与者数 |
|-----------------------|------|------------|
| 防衛医科大学校 医学教育部医学研究科 | 医学 | 16人 |

○885人に学士の学位を授与

－学部相当の課程修了者－

大学の学部に対応する教育を行う課程として認定された課程の平成15年3月修了者から学士の学位授与の申請があり、平成15年3月14日（金）開催の学位審査会における審査の結果、885人の申請者全員に学士の学位が授与されました。

<学士の学位授与申請者数及び授与者数（課程別）>

| 認定課程名 | 専攻分野 | 申請者数及び授与者数 |
|---------------------|------|------------|
| 防衛大学校本科 | 理学 | 25人 |
| | 工学 | 311 |
| | 社会科学 | 65 |
| | 計 | 401 |
| 防衛医科大学校 医学教育部医学科 | 医学 | 50 |
| 独立行政法人 水産大学校本科 | 水産学 | 165 |
| 海上保安大学校本科 | 海上保安 | 20 |
| 気象大学校大学部 | 理学 | 14 |
| 職業能力開発総合 大学校長期課程 | 工学 | 235 |
| 合 計 | | 885 |

認定専攻科関係

○新たに24専攻を認定 ー平成15年度ー

平成14年9月に申出のあった短期大学及び高等専門学校専攻科の認定について、専攻科の教育課程及び教員組織等の審査を付託された各専門委員会の審査の結果が、学位審査会に報告されました。そ

の報告に基づき、平成15年3月14日（金）開催の学位審査会における審査を経て、次の16校24専攻を平成15年度から認定することが決定され、機構長から専攻科の設置者等に通知しました。

1. 短期大学専攻科

| | 専攻科名 | 専攻名 | 入学定員 | 修業年限 | 設置者 | 適用時期 |
|----|----------------|---------|------|------|------------|-----------|
| 1 | 倉敷市立短期大学専攻科 | 保育臨床専攻 | 5 | 2 | 倉敷市 | 平成15年4月1日 |
| | | 服飾美術専攻 | 5 | 2 | | |
| 2 | 戸板女子短期大学専攻科 | 食物栄養専攻 | 20 | 2 | 学校法人戸板学園 | 平成15年4月1日 |
| | | 地域看護学専攻 | 15 | 1 | | |
| 3 | 飯田女子短期大学専攻科 | 助産学専攻 | 5 | 1 | 学校法人高松学園 | 平成15年4月1日 |
| | | 福祉専攻 | 30 | 1 | | |
| 4 | 中部学院大学短期大学部専攻科 | 福祉専攻 | 30 | 1 | 学校法人岐阜済美学院 | 平成15年4月1日 |
| 5 | 大阪芸術大学短期大学部専攻科 | 保育専攻 | 20 | 2 | 学校法人塚本学院 | 平成15年4月1日 |
| 6 | 神戸文化短期大学専攻科 | 造形専攻 | 30 | 2 | 学校法人福富学園 | 平成15年4月1日 |
| 7 | 兵庫大学短期大学部専攻科 | 保育専攻 | 40 | 2 | 学校法人睦学園 | 平成15年4月1日 |
| 8 | 鳥取短期大学専攻科 | 国際文化専攻 | 10 | 2 | 学校法人藤田学院 | 平成15年4月1日 |
| 9 | 山口芸術短期大学専攻科 | 幼児教育専攻 | 10 | 2 | 学校法人宇部学園 | 平成15年4月1日 |
| 10 | 九州女子短期大学専攻科 | 養護教育学専攻 | 20 | 2 | 学校法人福原学園 | 平成15年4月1日 |
| 11 | 長崎外国語短期大学専攻科 | 英語専攻 | 10 | 2 | 学校法人長崎学院 | 平成15年4月1日 |

2. 高等専門学校専攻科

| | 専攻科名 | 専攻名 | 入学定員 | 修業年限 | 設置者 | 適用時期 |
|----|----------------|---------------|------|------|-----|-----------|
| 12 | 苫小牧工業高等専門学校専攻科 | 電子・生産システム工学専攻 | 12 | 2 | 国 | 平成15年4月1日 |
| | | 環境システム工学専攻 | 8 | | | |
| 13 | 鶴岡工業高等専門学校専攻科 | 機械電気システム工学専攻 | 12 | 2 | 国 | 平成15年4月1日 |
| | | 物質工学専攻 | 4 | | | |
| 14 | 東京工業高等専門学校専攻科 | 機械情報システム工学専攻 | 8 | 2 | 国 | 平成15年4月1日 |
| | | 電気電子工学専攻 | 8 | | | |
| 15 | 長野工業高等専門学校専攻科 | 物質工学専攻 | 4 | 2 | 国 | 平成15年4月1日 |
| | | 生産環境システム専攻 | 12 | | | |
| 16 | 大分工業高等専門学校専攻科 | 電気情報システム専攻 | 8 | 2 | 国 | 平成15年4月1日 |
| | | 機械・環境システム工学専攻 | 8 | | | |
| | | 電気電子情報工学専攻 | 8 | | | |

○認定専攻科の教育の実施状況等の審査

本機構の認定を受けた短期大学及び高等専門学校
の専攻科は、認定後5年ごとに教育の実施状況等
についての審査を受けることとされています。

平成14年度は、平成4年4月1日、平成9年4
月1日認定の専攻科に係る審査が行われ、機構発足
以来6回目の審査となりました。

各専門委員会における教育課程及び教員組織等に

についての審査結果に基づき、平成15年2月13日
(木)、平成15年3月14日(金)開催の学位審査会
において教育の実施状況等の適否について審査が行
われ、審査対象となった26校36専攻(短期大学専
攻科21校24専攻、高等専門学校専攻科5校12専攻)
全てが「適」と判定され、機構長から専攻科の設置
者等に通知しました。

1. 短期大学専攻科

| | 専攻科名 | 専攻名 | 入学 定員 | 修業 年限 | 設置者 | 審査結果 |
|----|-----------------|---------|----------|----------|---------------|------|
| 1 | 埼玉県立大学短期大学部専攻科 | 助産学専攻 | 20 | 1年 | 埼玉県 | 適 |
| 2 | 水戸短期大学専攻科 | 税経専攻 | 20 | 2年 | 学校法人田中学園 | 適 |
| 3 | 新島学園女子短期大学専攻科 | 国際文化専攻 | 20 | 2年 | 学校法人新島学園 | 適 |
| 4 | 秋草学園短期大学専攻科 | 幼児教育専攻 | 20 | 2年 | 学校法人秋草学園 | 適 |
| 5 | 十文字学園女子短期大学部専攻科 | 食物栄養専攻 | 5 | 2年 | 学校法人十文字学園 | 適 |
| 6 | 聖徳大学短期大学部専攻科 | 福祉専攻 | 25 | 1年 | 学校法人東京聖徳学園 | 適 |
| 7 | 青山学院女子短期大学専攻科 | 教養専攻 | 30 | 1年 | 学校法人青山学院 | 適 |
| 8 | 昭和女子短期大学部専攻科 | 生活文化学専攻 | 10 | 1年 | 学校法人昭和女子大学 | 適 |
| 9 | 白梅学園短期大学専攻科 | 福祉専攻 | 40 | 1年 | 学校法人白梅学園 | 適 |
| 10 | 東邦大学医療短期大学専攻科 | 地域看護学専攻 | 20 | 1年 | 学校法人東邦大学 | 適 |
| | | 母子看護学専攻 | 15 | 1年 | | |
| 11 | 常葉学園短期大学専攻科 | 保育専攻 | 20 | 2年 | 学校法人常葉学園 | 適 |
| 12 | 名古屋柳城短期大学専攻科 | 保育専攻 | 15 | 2年 | 学校法人柳城学院 | 適 |
| 13 | 京都嵯峨芸術短期大学部専攻科 | 美術専攻 | 30 | 2年 | 学校法人大覚寺学園 | 適 |
| | | デザイン専攻 | 20 | 2年 | | |
| 14 | 成安造形短期大学専攻科 | 造形芸術専攻 | 35 | 2年 | 学校法人大阪成蹊学園 | 適 |
| 15 | 聖母女学院短期大学専攻科 | 児童教育専攻 | 10 | 2年 | 学校法人聖母女学院 | 適 |
| 16 | 大阪キリスト教短期大学専攻科 | 神学専攻 | 5 | 2年 | 学校法人大阪キリスト教学院 | 適 |
| 17 | 鳥取短期大学専攻科 | 福祉専攻 | 20 | 1年 | 学校法人藤田学院 | 適 |
| 18 | 岡山短期大学専攻科 | 食物栄養学専攻 | 10 | 1年 | 学校法人原田学園 | 適 |
| 19 | 比治山短期大学部専攻科 | 幼児教育専攻 | 10 | 1年 | 学校法人比治山学園 | 適 |
| 20 | 広島文化短期大学専攻科 | 音楽専攻 | 10 | 1年 | 学校法人広島文化学園 | 適 |
| | | 音楽演奏専攻 | 10 | 2年 | | |
| 21 | 鹿児島純心女子短期大学専攻科 | 食物栄養専攻 | 15 | 2年 | 学校法人鹿児島純心女子学園 | 適 |

2. 高等専門学校専攻科

| 専攻科名 | | 専攻名 | 入学定員 | 修業年限 | 設置者 | 審査結果 |
|------|----------------|---------------|------|------|-----|------|
| 22 | 奈良工業高等専門学校専攻科 | 機械制御工学専攻 | 8 | 2年 | 国 | 適 |
| | | 電子情報工学専攻 | 8 | 2年 | | |
| | | 化学工学専攻 | 4 | 2年 | | |
| 23 | 津山工業高等専門学校専攻科 | 機械・制御システム工学専攻 | 8 | 2年 | 国 | 適 |
| | | 電子・情報システム工学専攻 | 8 | 2年 | | |
| 24 | 宇部工業高等専門学校専攻科 | 生産システム工学専攻 | 12 | 2年 | 国 | 適 |
| | | 物質工学専攻 | 4 | 2年 | | |
| 25 | 新居浜工業高等専門学校専攻科 | 生産工学専攻 | 12 | 2年 | 国 | 適 |
| | | 電子工学専攻 | 8 | 2年 | | |
| 26 | 佐世保工業高等専門学校専攻科 | 機械工学専攻 | 4 | 2年 | 国 | 適 |
| | | 電気電子工学専攻 | 8 | 2年 | | |
| | | 物質工学専攻 | 4 | 2年 | | |

○「言語聴覚障害学」の単位修得の専攻基準を制定

新たに専攻分野「言語聴覚障害学」の単位修得の専攻基準が、平成15年2月13日（木）開催の学位審査会において制定されました。

| | |
|--|----------------|
| 専門科目（40単位以上） | |
| <p>【A群（言語聴覚障害学に関する科目）】（36単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言語聴覚障害学総論に関する科目 ○失語・高次脳機能障害学に関する科目 ○言語発達障害学に関する科目 ○発声発語・嚥下障害学に関する科目 ○聴覚障害学に関する科目 ○言語学・音声学に関する科目 ○言語聴覚障害学に関する臨床実習科目 <p>【B群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・臨床医学・臨床歯科医学に関する科目 ○社会福祉・リハビリテーション論に関する科目 ○心理学に関する科目 ○障害児教育学に関する科目 ○統計学・情報科学に関する科目 | 左のA群の7区分にわたること |
| 関連科目（4単位以上） | |
| <ul style="list-style-type: none"> ◇専攻分野「保健衛生学」の他の専攻区分の専門科目A群に区分される科目 ◇健康科学に関する科目 ◇教育学（障害児教育学以外）に関する科目 | |

■専門科目の例■

【A群（言語聴覚障害学に関する科目）】

- 言語聴覚障害学総論に関する科目
言語聴覚障害学概論、言語障害学概論、言語聴覚障害診断学、言語聴覚診断学演習、言語聴覚障害研究法など
- 失語・高次脳機能障害学に関する科目
認知系障害学、失語症治療学、失語症治療学演習、失語症学、高次脳機能障害学、失語・高次脳機能障害学演習、成人言語障害学、神経心理学など
- 言語発達障害学に関する科目
言語発達障害学、言語発達障害学演習、発達系障害学、言語発達遅滞、言語発達遅滞治療学、言語発達遅滞治療学演習、脳性麻痺、脳性麻痺言語治療学、精神発達遅滞、小児言語障害学、言語発達学、自閉症、学習障害、小児高次脳機能障害学など
- 発声発語・嚥下障害学に関する科目
発声発語障害学概論、成人発声発語系障害学、小児発声発語系障害学、音声障害学、構音障害学、成人構音障害治療学、小児構音障害治療学、小児構音障害治療学演習、成人構音障害・音声障害治療学演習、摂食・嚥下障害学、発声発語・嚥下障害学演習、吃音など
- 聴覚障害学に関する科目
聴覚障害学概論、聴覚障害学、聴覚障害学演習、聴覚障害治療学演習、聴覚障害診断学、小児聴覚障害学、小児聴覚障害治療学、成人聴覚障害学、成人聴覚障害治療学、聴覚検査・測定法、補聴器、人工内耳、視覚聴覚二重障害など
- 言語学・音声学に関する科目
言語学、心理言語学、音声学、音響学、言語心理学、聴覚心理学、音声情報処理、言語理論と言語心理、語用論、日本語学、心理・神経言語学、音声・言語科学演習など
- 言語聴覚障害学に関する臨床実習科目
評価実習、臨床評価実習、基礎臨床実習、総合臨床実習、症例検討など

【B群】

- 基礎・臨床医学・臨床歯科医学に関する科目
解剖学、解剖学実習、生理学、生理学実習、病理学、病理学実習、医学概論、老年医学、老年学、精神衛生学、精神保健学、精神医学、児童精神医学、音声・言語・聴覚医学、神経学、臨床神経学、リハビリテーション医学、公衆衛生学、内科学、小児科学、耳鼻咽喉科学、形成外科学、歯科・口腔外科学、脳神経外科学、脳の解剖生理学、脳波学、感染予防学、画像診断学、救急医療、遺伝学、遺伝学・奇形学、人間発達学、医療行動科学など
- 社会福祉・リハビリテーション論に関する科目
リハビリテーション概論、地域リハビリテーション論、チーム医療論、関係法規、地域保健福祉論、老人福祉論、障害者福祉論、社会福祉論、社会福祉学概論、社会福祉援助技術論、社会保障論、社会保障行政論、社会保障制度論、医療福祉機器論、国際医療・福祉システム、医療管理学、コメディカル概論、コミュニケーション福祉工学、ヘルス・コミュニケーション論、ケアマネジメント論、ケースワーク論、家族関係論、生活支援論、介護概論、レクリエーション指導論、ボランティア論など
- 心理学に関する科目
心理学、発達心理学、生涯発達心理学、学習心理学、教育心理学、生理心理学、老年心理学、臨床心理学、学習・認知心理学、認知心理学概論、心理学研究法、心理測定法、障害者（児）心理学、言語障害児心理学、聴覚障害者（児）心理学、児童学概論、音楽療法概論、カウンセリング、グループダイナミクス、対人コミュニケーション論など
- 障害児教育学に関する科目
障害児教育学、言語障害児教育学、聴覚障害児教育学など
- 統計学・情報科学に関する科目
統計学、医療統計学、医療情報科学、情報科学、情報学概論、情報処理、コンピュータ入門、実験計画法など

各省庁大学校認定課程関係

○各省庁大学校認定課程の教育の実施状況等の審査

省庁大学校等の学校以外の教育施設で本機構から大学又は大学院に相当する教育を行う課程の認定を受けている教育施設については、認定後5年ごとに教育の実施状況等の審査を行うこととされています。

平成14年度は、平成4年度、平成9年度の認定課程に係る審査が行われました。

各専門委員会における教育課程及び教員組織等についての審査結果に基づき、平成15年2月13日（木）開催の学位審査会において教育の実施状況等の適否について審査が行われ、審査対象となった6校8課程全てが「適」と判定され、機構長名で当該所轄省庁を通じて教育施設の長へ通知されました。

(1) 大学の学部に対応する教育を行う課程

| 認定課程名 | 入学定員 | 修業年限 | 審査結果 |
|-----------------|------|------|------|
| 防衛医科大学校医学教育部医学科 | 80 | 6 | 適 |
| 独立行政法人水産大学校本科 | 185 | 4 | 適 |
| 海上保安大学校本科 | 50 | 4 | 適 |
| 気象大学校大学部 | 15 | 4 | 適 |
| 職業能力開発総合大学校長期課程 | 220 | 4 | 適 |

(2) 大学院の修士課程に対応する教育を行う課程

| 認定課程名 | 入学定員 | 修業年限 | 審査結果 |
|-----------------|------|------|------|
| 防衛大学校総合安全保障研究科 | 20 | 2 | 適 |
| 職業能力開発総合大学校研究課程 | 30 | 2 | 適 |

(3) 大学院の博士課程に対応する教育を行う課程

| 認定課程名 | 入学定員 | 修業年限 | 審査結果 |
|-------------------|------|------|------|
| 防衛医科大学校医学教育部医学研究科 | 30 | 4 | 適 |

これまでの学位授与・専攻科認定の状況等

○学位授与の状況

1. 短期大学・高等専門学校卒業生、専門学校修了者等が大学等においてさらに一定の学修を行った場合の学士の学位の授与(学位規則第6条第1項)

<平成4年度10月期～平成14年度10月期申請分>

| 専攻分野 | 専攻区分 | 授与者数 |
|------|---------|------|
| 文 学 | 国語国文学 | 97人 |
| | 英語・英米文学 | 85 |
| | 独語・独文学 | 2 |
| | 仏語・仏文学 | 9 |
| | 歴史学 | 13 |
| | 哲学 | 4 |
| | 心理学 | 19 |
| | 宗教学 | 45 |
| 教育学 | 教育学 | 659 |
| 神学 | 神学 | 10 |
| 社会学 | 社会学 | 10 |
| | 社会福祉学 | 32 |
| 教 養 | 比較文化 | 5 |
| | 地域研究 | 83 |
| | 国際関係 | 2 |
| | 科学技術研究 | 7 |
| 学 芸 | 比較文化 | 2 |
| | 地域研究 | 8 |
| | 国際関係 | 1 |
| | 科学技術研究 | 1 |
| 社会科学 | 社会科学 | 3 |
| 法 学 | 法 学 | 31 |
| 政治学 | 政治学 | 9 |
| 経済学 | 経済学 | 28 |
| 商 学 | 商 学 | 38 |

| | | |
|-------|---------|--------|
| 経営学 | 経営学 | 52人 |
| 理 学 | 数学・情報系 | 14 |
| | 物理学・地学系 | 8 |
| | 化学系 | 7 |
| | 生物学系 | 19 |
| | 総合理学 | 13 |
| 看護学 | 看護学 | 1,357 |
| 保健衛生学 | 検査技術科学 | 520 |
| | 臨床工学 | 5 |
| | 放射線技術科学 | 1,157 |
| | 理学療法学 | 310 |
| | 作業療法学 | 215 |
| 鍼灸学 | 鍼灸学 | 55 |
| 栄養学 | 栄養学 | 1,013 |
| 工 学 | 機械工学 | 1,223 |
| | 電気電子工学 | 1,287 |
| | 情報工学 | 261 |
| | 応用化学 | 492 |
| | 生物工学 | 50 |
| | 材料工学 | 191 |
| | 土木工学 | 394 |
| 建築学 | 236 | |
| 芸術工学 | 芸術工学 | 165 |
| 農 学 | 農 学 | 61 |
| 家政学 | 家政学 | 45 |
| 芸術学 | 音 楽 | 441 |
| | 美 術 | 1,469 |
| 体育学 | 体育学 | 24 |
| 合 計 | | 12,287 |

2. 本機構が認定する教育施設の課程修了者に対する学士、修士及び博士の学位授与（学位規則第6条第2項）

(1) 学士（大学の学部に対応する教育を行う課程）
 <平成3年度～平成14年度>

| 認定課程名 | 専攻分野 | 授与者数 |
|---------------------|------|--------|
| 防衛大学校本科 | 理学 | 303人 |
| | 工学 | 3,540 |
| | 社会科学 | 777 |
| | 計 | 4,620 |
| 防衛医科大学校 医学教育部医学科 | 医学 | 754 |
| 独立行政法人 水産大学校本科 | 水産学 | 1,998 |
| 海上保安大学校本科 | 海上保安 | 468 |
| 気象大学校大学部 | 理学 | 164 |
| 職業能力開発総合 大学校長課程 | 工学 | 2,608 |
| 合 計 | | 10,612 |

(2) 修士（大学院の修士課程に対応する教育を行う課程）

<平成4年度～平成14年度>

| 認定課程名 | 専攻分野 | 授与者数 |
|---------------------------|------|-------|
| 防衛大学校 理工学研究科 (前期課程) | 理学 | 57人 |
| | 工学 | 665 |
| | 計 | 722 |
| 防衛大学校 総合安全保障研究科 | 社会科学 | 74 |
| 職業能力開発総合 大学校研究課程 | 工学 | 228 |
| 独立行政法人水産大学校 水産学研究科 | 水産学 | 65 |
| 合 計 | | 1,089 |

(3) 博士（大学院の博士課程に対応する教育を行う課程）

<平成3年度～平成14年度>

| 認定課程名 | 専攻分野 | 授与者数 |
|-----------------------|------|------|
| 防衛医科大学校 医学教育部医学研究科 | 医学 | 187人 |

○各省庁大学校の課程の認定状況

(1) 大学の学部に対応する教育を行う課程

| 認定課程名 | 修業年限 | 認定年月日 |
|---------------------|------|------------|
| 防衛大学校本科 | 4年 | 平成3年12月18日 |
| 防衛医科大学校 医学教育部医学科 | 6年 | 平成3年8月30日 |
| 独立行政法人 水産大学校本科 | 4年 | 平成3年12月18日 |
| 海上保安大学校本科 | 4年 | 平成3年12月18日 |
| 気象大学校大学部 | 4年 | 平成3年12月18日 |
| 職業能力開発総合 大学校長課程 | 4年 | 平成3年12月18日 |
| 国立看護大学校 看護学部看護学科 | 4年 | 平成13年3月26日 |

(2) 大学院の修士課程に対応する教育を行う課程

| 認定課程名 | 修業年限 | 認定年月日 |
|-----------------------|------|------------|
| 防衛大学校理工学研究科 (前期課程) | 2年 | 平成3年12月18日 |
| 防衛大学校 総合安全保障研究科 | 2年 | 平成9年3月11日 |
| 職業能力開発総合 大学校研究課程 | 2年 | 平成3年12月18日 |
| 独立行政法人水産大学校 水産学研究科 | 2年 | 平成6年6月23日 |

(3) 大学院の博士課程に対応する教育を行う課程

| 認定課程名 | 修業年限 | 認定年月日 |
|-----------------------|------|------------|
| 防衛医科大学校 医学教育部医学研究科 | 4年 | 平成3年8月30日 |
| 防衛大学校理工学研究科 (後期課程) | 3年 | 平成13年3月12日 |

○短期大学及び高等専門学校専攻科の認定状況

| 区 分 | 年 度 別 認 定 専 攻 数 | | | | | | | | | | | | | 平成15年度 現 在 認 定 専 攻 数 | 入学定員 |
|---------------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|------------------------|----------------------------|-----------|
| | 平成 4年度 | 平成 5年度 | 平成 6年度 | 平成 7年度 | 平成 8年度 | 平成 9年度 | 平成 10年度 | 平成 11年度 | 平成 12年度 | 平成 13年度 | 平成 14年度 | 平成 15年度 | | | |
| 短 期 大 学 専 攻 科 | 文 学 | 4(1) | 8(1) | 3(1) | 8(6) | 3(1) | | | 1 | 1 | | | 1(1) | 12(7) | 185人(105) |
| | 教 育 学 | 1 | 5 | 8(2) | 2(1) | 4(2) | 5(4) | 4(3) | 2(1) | 2(2) | 4(3) | 4(4) | 5(5) | 33(26) | 565(455) |
| | 社 会 学 | 3 | 2(1) | 1 | 1 | | | | | | | | 1 | 7 | 240(0) |
| | 教 養 | | 2 | 1 | 1(1) | 1(1) | 2(1) | | | 1(1) | | | 1(1) | 7(4) | 160(60) |
| | 経済・商学・経営 | | 1(1) | | 2(1) | 1 | 1(1) | | | | | | | 2(2) | 26(26) |
| | 看 護 学 | 8 | 9 | 2 | 1 | 2 | | 4 | 3 | 3 | 1 | 2 | 2 | 24 | 480(0) |
| | 保健衛生学 | | | | 1 | 1 | | | | | 1 | | | 3 | 50(0) |
| | 鍼 灸 学 | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | 10(0) |
| | 家政学・栄養学 | 2 | 8(2) | 4 | 7(4) | 8(5) | 4(2) | 4(1) | 4(3) | 1(1) | 2(1) | 2(2) | 2(2) | 35(23) | 540(390) |
| | 工学・芸術工学 | | | | 3(3) | 1(1) | | 1(1) | | 2(2) | | | 1(1) | 7(7) | 103(103) |
| | 農 学 | | 1 | | | | | 1(1) | | | | | | 2(1) | 23(8) |
| | 芸 術 学 | 10(8) | 4(1) | 1(1) | 1 | 3(2) | | 4(4) | 1(1) | 6(3) | | 1(1) | | 22(16) | 440(345) |
| | 体 育 学 | | | | 1(1) | | | | | | | | | 1(1) | 20(20) |
| | そ の 他 | 1 | | | | | | | | | | | | 0 | |
| 計 | 20校 29専攻 (9) | 29校 40専攻 (6) | 15校 20専攻 (4) | 21校 28専攻 (17) | 22校 24専攻 (12) | 12校 12専攻 (8) | 17校 19専攻 (10) | 11校 11専攻 (5) | 10校 16専攻 (9) | 7校 8専攻 (4) | 8校 9専攻 (7) | 11校 13専攻 (10) | 103校 156専攻 (87) | 2,842人 (1,512) | |
| 専高等 攻専門 科学校 | 2校 5専攻 (5) | 4校 8専攻 (8) | 3校 8専攻 (8) | 3校 7専攻 (7) | 5校 11専攻 (11) | 3校 7専攻 (7) | 4校 8専攻 (8) | 3校 7専攻 (7) | 7校 17専攻 (17) | 5校 12専攻 (12) | 4校 10専攻 (10) | 5校 11専攻 (11) | 47校 111専攻 (111) | 846人 (846) | |
| 合 計 | 22校 34専攻 (14) | 33校 48専攻 (14) | 18校 28専攻 (12) | 24校 35専攻 (24) | 27校 35専攻 (23) | 15校 19専攻 (15) | 21校 27専攻 (18) | 14校 18専攻 (12) | 17校 33専攻 (26) | 12校 20専攻 (16) | 12校 19専攻 (17) | 16校 24専攻 (21) | 150校 267専攻 (198) | 3,688人 (2,358) | |

(注1) () 内は、2年制の専攻科で内数である。

(注2) 「平成15年度現在認定専攻数」欄の学校及び専攻科数については、実数を記載（同一の学校が複数の専攻科の認定を受けたこと、修業年限1年の専攻を廃止して修業年限2年の専攻を設置し新たに認定したこと及び専攻を廃止したこと等により単純に累計とならない）。

平成15年度学位授与事業関係

○平成15年度学士の学位授与申請受付期間及び試験日程

| 申請の時期の区分 | 受付期間 | 試験の区分 | 試験場 | | | 試験日 |
|------------|---|---------------|-----|----|----|---|
| 平成15年度4月期 | 平成15年4月1日(火) ↓ 平成15年4月7日(月) *当日消印有効 *申請書類の提出方法は郵送(書留)のみ | 小論文試験 (注1) | 東京 | 大阪 | 福岡 | 平成15年6月15日(日) |
| | | 面接試験 (注2) | 東京 | / | / | 平成15年6月15日(日) |
| 平成15年度10月期 | 平成15年10月1日(水) ↓ 平成15年10月7日(火) *当日消印有効 *申請書類の提出方法は郵送(書留)のみ | 小論文試験 (注1) | 東京 | 大阪 | 福岡 | 平成15年12月14日(日) |
| | | 面接試験 (注2) | 東京 | / | / | 平成15年12月6日(土) 又は平成15年12月7日(日)のうち機構が指定する日 |

(注1) 学修成果としてレポートを提出した者

(注2) 専攻分野「芸術学」でレポート以外の学修成果を提出した者

○学士の学位授与制度及び申請方法等関連の刊行物

大学評価・学位授与機構では、学士の学位授与制度及び申請方法等について説明した冊子等を毎年作成し、希望者からの請求により郵送しています。

ご希望の方は、①希望する冊子の名称及び必要部数を記載したメモ、②返信用封筒(角型2号に送料分切手貼付)を同封した上で、機構の学位審査課まで請求してください。

なお、2部以上請求される場合の郵送料等、不明な点がありましたら学位審査課にお問い合わせください。

◎大学評価・学位授与機構管理部学位審査課

〒187-8587 東京都小平市学園西町1-29-1 Tel 042-353-1550 (問い合わせ専用)

| 冊子の名称 | 主な内容 | 郵送料 (1部のみ請求する場合) |
|----------------------|--|---------------------|
| リーフレット | 本機構が行う学士の学位授与制度(短大・高等専門学校卒業生及び専門学校修了者等を対象とするもの)を簡略に説明したもの | 120円 |
| 新しい学士への途 | 本機構が行う学士の学位授与制度(短大・高等専門学校卒業生及び専門学校修了者等を対象とするもの)及びその申請方法等を詳細に説明したもの | 240円 |
| 学位授与申請書類 | 学位授与申請に必要な書類等のうち、本機構が指定する書類様式及び封筒等を綴ったもの | 200円 |
| 機構認定短期大学・高等専門学校専攻科一覧 | 本機構が認定する短期大学・高等専門学校専攻科の開設する授業科目、学生募集の概要、授業料などを掲載したもの | 390円 |
| 科目等履修生制度の開設大学一覧 | 科目等履修生制度を開設する大学についての実施学部、出願期間、授業料などを掲載したもの | 580円 |

○平成15年度学位授与関係審査スケジュール

| 区分 | 学士の学位授与 (6条1項関係) | 専攻科関係 ●:認定関係 ◎:レビュー関係 | 各省庁大学校関係 ○:6条2項関係 ◎:レビュー関係 | 備考 |
|-----|---|--|---|----|
| 4月 | 4月期申請受付(4/1~4/7) | ●認定済専攻科から状況報告書の提出(学年度開始2か月以内) | 課程修了者(修士相当課程)から申請受付(課程修了後1か月以内) | |
| 5月 | 学位審査会(5月16日(金)11:00~13:00) | | | |
| | ○専門委員会(5/19~5/30) 修得単位の審査 審査担当委員の決定等 試験問題の作成 | ◎専攻科の概要等の書類提出 締切 (5/31まで) | ○専門委員会(~8月上旬) 審査担当委員の決定等 口頭試問の実施 | |
| 6月 | 小論文・面接試験実施(6/15) 試験に係る判定原案作成 | | | |
| 7月 | ○専門委員会(7/7~7/25) 学修成果・試験の審査 総合判定 | | | |
| 8月 | 学位審査会(8月26日(火)10:30~13:00) | | | |
| | 学士の学位授与(8月下旬) | ◎専攻科の教員調書等及び審査書類提出通知(8/31まで) | | |
| 9月 | | ●専攻科の認定申出(9/30まで) ◎次年度レビューの通知 (9/30まで) | 課程修了者(博士相当課程)から申請受付(課程修了後1か月以内) 修士の学位授与 ◎次年度レビューの通知 (9/30まで) | |
| 10月 | 10月期申請受付(10/1~10/7) | ◎専攻科の教員調書等及び審査書類提出締切(10/31まで) | | |
| 11月 | 学位審査会(11月11日(火)10:30~13:00) | | | |
| | ○専門委員会(11/12~11/28) 修得単位の審査 審査担当委員の決定等 試験問題の作成 | ●◎専門委員会(~1月下旬) 教員等の審査 | ○専門委員会(~1月下旬) 審査担当委員の決定等 口頭試問の実施 | |
| 12月 | 面接試験実施(12/6, 7) 小論文試験実施(12/14) 試験に係る判定原案作成 | | | |
| 1月 | ○専門委員会(1/15~1/30) 学修成果・試験の審査 総合判定 | | ○専門委員会(1月下旬) 可否の判定 | |
| 2月 | 学位審査会(2月12日(木)10:30~13:00) | | | |
| | 学士の学位授与(~3月下旬) | | 博士の学位授与 | |
| 3月 | | | 課程修了者(学部相当課程)から申請受付(課程修了後1か月以内) | |
| | 学位審査会(3月16日(火)11:00~13:00) | | | |
| | | | 学士の学位授与 | |

「JABEEに関する研究会」を開催

学位審査研究部では近年急速に整備が進んでいる工学分野の教育認定システムである日本技術者教育認定機構（JABEE）の現状と課題を学ぶため、「JABEEに関する研究会」を平成15年5月12日午後、小平本館コンベンションホールにおいて開催しました。

小野学位審査研究部長から開会の挨拶と研究会の趣旨説明が述べられ（写真1）、ついで第1の講演が篠田庄司中央大学教授（電子情報通信学会 認定企画実施委員会副委員長）より「電気電子分野での技術者教育認定の現状と課題」と題して行われました（写真2）。



写真1



写真2

講演は外国から見た日本の大学教育の質に関する批判的な新聞記事の紹介から始まり、高等教育の国際通用性の保証に関する制度の整備が必要であること、米国の工学教育認定機構（ABET）を中心とする国際相互承認協定（ワシントン協定）にJABEEは既に暫定加盟し、関係各学会の協力を得て規定整備を終え、試行の期間を経て本格実施が開始されていることが報告されました。また教育認定の実際を具体的に示すために米国ABETの審査委員が対象校を訪問調査するスライドや、JABEEにおける評価のプロセスの概要が説明されました。高専専攻科の認定、平成15年度の規程改訂、電子情報通信学会での取り組み（審査員要請自主研修会、学会誌によ

る解説など）の紹介も行われました。

後半では第2の講演が中島尚正放送大学教授（東京多摩学習センター所長、日本工学教育協会工学審査委員会委員長）および椿原治日本工学教育協会専務理事（写真3）より「工学一般・機械工学分野での技術者教育認定の現状と課題」について行われました。中島教授は工学教育の現代的課題として3つの目標を掲げられました：[1] グローバル化、[2] “使える技術者”、[3] 技術の環境化。国際的に通用する技術者を育てているかを見るためにJABEEの整備が進んでおり、ここではevidenceを示し、また改善の仕組みが組み込まれていることが重要であると述べられました。



写真3

椿原氏は技術者教育認定に関する日米比較、アジア各国比較から始め、我が国における取り組みの現状を工学（融合・複合・新領域）分野に即して紹介されました。また産業界で品質保証に取り組んでいるISO14001との類似性の観点から、Goal - Process - Outcome and Assessment - Continuous Improvementの流れを説明されました。JABEE本審査の実績は平成13年度で6プログラム、14年度で32であり、15年度には60以上が予想されること、それに対応する審査委員の養成も進んでいることが紹介されました。

講演の後、活発な質疑応答が終了予定時間まで続けられました。学位授与事業として短大・高専の専攻科認定業務が行われ、また評価事業でも今後高専の認証業務が予定されることでもあり、JABEEの活動には参考とすべき点が少なくありません。特に、高専専攻科のJABEE課程修了者は本機構から学位を授与されないと個人としてはJABEE認定を名乗ることが出来ないなど相互の関係が深いことも判りました。今後も継続的に情報収集、交流をする必要性を感じた研究会でした。

（学位審査研究部 神谷 武志）

機 構 の 窓

○遠山文部科学大臣、機構を訪問

平成15年5月26日（月）、遠山文部科学大臣が一橋大学国際キャンパス完成記念式典にご出席後、機構を訪問されました。エントランスホール、コンベンションホールなどを見学された後、機構長からアートワークの説明を受けられました。また、大臣に工藤文科審議官、萩原文教施設部長が同行しました。



○会議の開催状況

評議員会

第26回 平成15年2月28日（金）

・議事

- (1) 機構長候補者の推薦について
- (2) 大学評価事業関係
 - ① 大学評価事業の実施状況について
 - ② 大学評価事業の今後の在り方について
- (3) 学位授与事業関係
 - ① 学位授与事業の実施状況について
- (4) 機構の法人化について
- (5) その他



評議員会（H15. 2. 28）

運営委員会

第46回 平成15年3月4日（火）

・議事

- (1) 機構長候補者の推薦について
- (2) 評価研究部専任教員の選考について
- (3) 客員教授の選考について
- (4) 大学評価委員会専門委員の選考について
- (5) 学位審査会審査委員及び専門委員の選考等について
- (6) 大学評価事業関係
 - ① 大学評価事業の実施状況について
 - ② 大学評価事業の今後の在り方について
- (7) 学位授与事業関係
- (8) 機構の法人化について
- (9) その他

第47回 平成15年5月28日（水）

・議事

- (1) 評価研究部専任教員の選考について
- (2) 評価研究部客員教授の選考について
- (3) 平成14年度着手の大学評価委員会専門委員及び評価員の選考について
- (4) 学位審査会専門委員の選考及び臨時専門委員の任命について
- (5) 平成15年度機構事業実施計画（案）について
- (6) 学位授与事業関係
- (7) 大学評価事業関係



運営委員会（H15. 5. 28）

大学評価委員会

第19回 平成15年3月25日（火）

- ・議事
 - (1) 平成13年度着手分の評価結果に対する対象機関からの意見申立てへの対応について
 - (2) 平成13年度着手分の大学評価の評価結果について
 - (3) 平成13年度着手の大学評価の対象機関に関する意見照会について
- ・その他

第20回 平成15年5月27日（火）

- ・議事
 - (1) 平成14年度着手の大学評価に係る専門委員及び評価員の選考について
 - (2) 平成14年度着手の評価に係る目的及び目標に関する事前調査結果について
 - (3) 全学テーマ別評価における自己評価実施要項等の変更について
 - (4) 平成13年度着手の評価に対する対象機関等からの意見と今後の評価事業の在り方について
- ・その他

大学評価委員会専門委員会 <平成15年2月～平成15年5月>

<平成13年度着手分>

- | | 開催回数 |
|----------------------------------|------|
| ・全学テーマ別評価 | |
| (1) 教養教育に関する専門委員会 | 1回 |
| (2) 研究活動面における社会との連携及び協力に関する専門委員会 | 1回 |
| ・分野別教育評価 | |
| (1) 法学系教育評価専門委員会 | 1回 |
| (2) 教育学系教育評価専門委員会 | 1回 |
| (3) 工学系教育評価専門委員会 | 1回 |
| ・分野別研究評価 | |
| (1) 法学系研究評価専門委員会 | 1回 |
| (2) 教育学系研究評価専門委員会 | 1回 |
| (3) 工学系研究評価専門委員会 | 1回 |

<平成14年度着手分>

- | | 開催回数 |
|---------------------------|------|
| ・全学テーマ別評価 | |
| (1) 国際的な連携及び交流活動に関する専門委員会 | 2回 |
| ・分野別教育評価 | |
| (1) 人文学系教育評価専門委員会 | 1回 |
| (2) 経済学系教育評価専門委員会 | 1回 |
| (3) 農学系教育評価専門委員会 | 1回 |
| ・分野別研究評価 | |
| (1) 人文学系研究評価専門委員会 | 1回 |
| (2) 経済学系研究評価専門委員会 | 1回 |
| (3) 農学系研究評価専門委員会 | 1回 |
| ・総合科学教育・研究評価専門委員会 | 1回 |

学位審査会

第63回 平成15年2月13日(木)

・議事

- (1) 学位規則第6条第1項に規定する学士の学位授与の審査について
- (2) 認定課程修了者に係る博士の学位授与の審査について
- (3) 短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定について
- (4) 平成14年度教育の実施状況等の審査について(短期大学・高等専門学校の認定専攻科)
- (5) 平成14年度教育の実施状況等の審査について(各省庁大学の認定課程)
- (6) 認定課程修了者に係る修士の学位授与の申請予定について
- (7) 専攻基準の改正等について
- (8) その他

第64回 平成15年3月14日(金)

・議事

- (1) 認定課程修了予定者に係る学士の学位授与の審査について
- (2) 教育の実施状況等の審査について
- (3) 専攻基準の改正について
- (4) 平成15年度審査スケジュールについて
- (5) その他

第65回 平成15年5月16日(金)

・議事

- (1) 短期大学及び高等専門学校の卒業者等に係る学士の学位授与の審査の付託について
- (2) 認定課程修了者に係る修士の学位授与の審査の付託について
- (3) 平成15年度学位授与事業実施計画について
- (4) その他



学位審査会 (H15. 5. 16)

学位審査会専門委員会 <平成15年2月～平成15年5月>

1. 審査事項

- ① 学士の学位授与申請に係る審査について
- ② その他

2. 開催回数

| | | | |
|-------------------------------|----|--------------------------|----|
| 文学・神学専門委員会 (英語・英米文学部会) | 1回 | 工学・芸術工学専門委員会 (機械工学部会) | 1回 |
| 教育学専門委員会 | 1回 | 芸術学専門委員会 (美術部会) | 1回 |
| 法学・政治学専門委員会 | 1回 | | |
| 経済学・商学・経営学専門委員会 | 1回 | | |
| 理学専門委員会 (物理学・地学系部会) | 1回 | | |
| (化学系部会) | 1回 | | |
| (生物学系部会) | 1回 | | |
| 看護学・保健衛生学・鍼灸学専門委員会 (看護学部会) | 2回 | | |
| (検査技術科学部会) | 1回 | | |

○研究紀要「大学評価」第1号・第2号の発行

大学評価・学位授与機構における調査研究の成果として、「大学評価」第1号・第2号を刊行しました。内容は次のとおりです。

また、機構ウェブサイトにも掲載しています (<http://www.niad.ac.jp/>)。

(1) 「大学評価」第1号 [2002年(平成14年)10月発行]

○論文

- ・アメリカの大学におけるTQM(総合的品質経営)活用状況に関するアンケート調査結果
館 昭・森 利枝
- ・高等教育における評価の諸要素とその機能 ―改善指向の評価文化の形成に向けて― 大塚 雄作
- ・日本とアメリカのクオリティ・マネジメント(Quality Management)をめぐる今日的特質
―アメリカの大学におけるTQM導入成果をふまえて― 八尾坂 修
- ・アメリカにおける管理運営モデルの変遷と高等教育機関への応用 山田 礼子
- ・TQMの大学経営への適用に関する課題 ―企業経営と大学経営の差異に着目して― 齊藤 貴浩

○研究ノート・資料

- ・TQMの観点から見た企業・組織経営の事例調査 喜多 一
- ・日本経営品質賞と受賞企業の活動事例：日本アイ・ビー・エム株式会社ゼネラル・ビジネス事業部 溝上智恵子
- ・日本経営品質賞受賞企業の活動事例：アサヒビール株式会社 喜多 一
- ・日本経営品質賞受賞企業の活動事例：日本総合研究所 齊藤 貴浩
- ・「患者さま」中心の病院経営 ―医療法人鉄蕉会亀田メディカルセンターを事例として― 齊藤 貴浩
- ・TQM概念から見た大学マネジメントの現状 ―立命館大学の事例調査報告― 林 隆之

(2) 「大学評価」第2号 [2002年(平成14年)12月発行]

○論文

- ・東京大学における学士前期課程教育の授業評価 川口 昭彦
- ・日本の高等教育の新しい質的保証制度 ―社会的背景・課題・将来― 米澤 彰純

○研究ノート・資料

- ・欧州における研究評価の教育コースの現状 林 隆之
- ・英国の研究評価事業における評価部会の基準と作業手順 ―資料「RAE文書5/99」の解説
岩田 末廣・徳田 昌則

○「大学評価・学位授与機構概要」の発行

当機構の組織・事業内容等について総合的に説明した「大学評価・学位授与機構概要」を平成15年5月に発行しました。今年度は、「大学評価事業」、「学位授与事業」について、更に頁数を増やし、詳しく説明しております。

この概要は、当機構について出来るだけ多くの方々にご理解をいただけるよう、全国の大学・短期大学・高等専門学校、都道府県教育委員会等に配布しておりますが、直接配布を希望される方は、当機構管理部総務課までお問い合わせください。

なお、この概要については、当機構のウェブサイト (<http://www.niad.ac.jp/gaiyo/index.htm>) にも掲載しております。

○規則の制定等

次の規則の制定等を行いました。

- ・大学評価・学位授与機構の法人化対応委員会設置要項の制定
 <理由> 法人化に向けて、機構の運営等の基本について検討を行うため。
 <内容> 法人化対応委員会の任務、組織、委員長等を定めた。
 <制定日> 平成15年2月13日 <施行日> 平成15年2月13日
- ・学士の学位授与に係る修得単位審査要項の一部改正
 <理由> 専攻分野「言語聴覚障害学」の専攻基準等を制定したため。
 <内容> 専攻区分、専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数の追加、修正を行った。
 <制定日> 平成15年2月13日 <施行日> 平成15年2月13日
- ・大学評価・学位授与機構文書処理規則の一部を改正する規則
 <理由> 文部科学省からの通知「秘密文書の適切な取扱いについて」に基づく改正
 <内容> 原議書の(表)中、取扱区分欄の「部外秘」を削除した。
 <制定日> 平成15年2月24日 <施行日> 平成15年3月1日
- ・研究員等の受入に関する規則の制定
 <理由> 研究員等の受入等を円滑に行うため
 <内容> 研究員等の受入に必要な受入申請、研究方法、研究期間等を定めた。
 <制定日> 平成15年2月24日 <施行日> 平成15年4月1日
- ・大学評価・学位授与機構職員の勤務箇所の廃止
 <理由> 大学評価・学位授与機構に勤務する職員の勤務時間等に関する規則の一部改正
- ・大学評価・学位授与機構職員の身分証明書取扱要項の一部改正
 <理由> 大学評価・学位授与機構が東京都小平市に移転のため
 <内容> 移転に伴い、東京連絡所、大塚事業所及び一ツ橋事業所の各勤務箇所の廃止及び時差通勤を廃止したため一部職員を除く勤務時間を午前8時30分～午後5時に改正した。また、身分証明書の機構所在地等、様式を改めた。
 <制定日> 平成15年4月1日 <施行日> 平成15年4月1日
- ・大学評価・学位授与機構図書委員会設置要項
 <理由> 図書資料室の管理・運営等に関する事項を検討するため。
 <内容> 委員会の任務、組織、委員長、任期等を定めた。
 <制定日> 平成15年5月22日 <施行日> 平成15年4月1日
- ・大学評価・学位授与機構大学評価事業の今後の在り方に関する検討委員会設置要項の一部改正
 <理由> 専門的な事項を調査、検討するためワーキンググループの設置が必要のため。
 <内容> 任務、構成員の追加、ワーキンググループを設置した。
 <制定日> 平成15年4月10日 <施行日> 平成15年4月10日
- ・大学評価・学位授与機構図書資料室暫定利用要項
- ・大学評価・学位授与機構文献複写要項
 <理由> 図書資料室の利用に関する事項を整備するため。
 <内容> 図書資料室における利用者、開室時間、利用内容等について定めた。
 <制定日> 平成15年5月22日 <施行日> 平成15年5月22日

○委員の異動等

学位審査会

学位審査会(大学評価・学位授与機構の審査並びに大学以外の教育施設に置かれる課程の認定及び短期大学・高等専門学校専攻科の認定の審査を行う)の委員18人全員の任期満了に伴い、5人の方々が退任し、13人の方々が再任されるとともに、新たに7人の方々が就任されました。

- ・退任(平成15年3月31日任期満了)

| 氏名 | 退任時の職 | 在任期間 |
|---------|------------|----------------------|
| 倉田 忠 男 | 新潟薬科大学教授 | 平成11年4月1日～平成15年3月31日 |
| 佐々木 雄 太 | 名古屋大学大学院教授 | 平成13年4月1日～平成15年3月31日 |
| 豊田 昌 倫 | 関西外国語大学教授 | 平成14年4月1日～平成15年3月31日 |
| 支倉 崇 晴 | 早稲田大学教授 | 平成10年4月1日～平成15年3月31日 |
| 前田 富士男 | 慶應義塾大学教授 | 平成12年4月1日～平成15年3月31日 |

- ・審査委員20人(○新任 *再任)(会長：岩村 秀、副会長：神谷 武志)
 新任・再任者の任期は平成15年4月1日～平成16年3月31日

| 氏名 | 現職 | 氏名 | 現職 |
|----------|---------------|----------|---------------|
| *阿 曾 洋 子 | 大阪大学教授 | ○中 桐 滋 | 横浜国立大学教授 |
| *岩 村 秀 | 放送大学教授 | *中 司 利 一 | 帝京大学教授 |
| *小 野 嘉 夫 | 大学評価・学位授与機構教授 | *中 原 一 彦 | 東京大学教授 |
| *神 谷 武 志 | 大学評価・学位授与機構教授 | *難 波 憲 二 | 広島大学教授 |
| ○北 住 炯 一 | 名古屋大学教授 | ○西 村 清 和 | 埼玉大学教授 |
| *北 原 和 夫 | 国際基督教大学教授 | *西 村 仁 嗣 | 筑波大学教授 |
| ○古 城 佳 子 | 東京大学教授 | ○畑 江 敬 子 | お茶の水女子大学教授 |
| *白 井 良 明 | 大阪大学教授 | ○六 車 正 章 | 大学評価・学位授与機構教授 |
| *館 本 昭 | 大学評価・学位授与機構教授 | *八 木 克 道 | 大学評価・学位授与機構教授 |
| ○富 山 太佳夫 | 青山学院大学教授 | *渡 辺 馨 | 日本大学教授 |

○人事異動（平成15年2月～平成15年6月）

| 月 日 | 氏 名 | 異 動 内 容 | | 異動前等の職名 |
|-----------------|-----------|---------|-------------------------------|-------------------------------------|
| 【機構長】 | | | | |
| 15. 4. 1 | 木 村 孟 | 再 任 | 機構長 | 機構長 |
| 【評価研究部】 | | | | |
| 15. 3. 31 | 田 中 成 明 | 併任終了 | 京都大学大学院法学研究科教授 | 評価研究部教授併任 |
| 15. 3. 31 | 堀 内 昭 義 | 併任終了 | 東京大学大学院経済学研究科教授 | 評価研究部教授併任 |
| 15. 3. 31 | 森 敏 | 併任終了 | 東京大学大学院農学生命科学研究科教授 | 評価研究部教授併任 |
| 15. 4. 1 | 木 村 靖 二 | 転 任 | 評価研究部教授 | 東京大学大学院人文社会系研究科教授 |
| 15. 4. 1 | 野 澤 孝 之 | 採 用 | 評価研究部助手 | |
| 15. 4. 2 | 森 敏 | 採 用 | 評価研究部教授 | |
| 15. 6. 1 | 荻 上 紘 一 | 採 用 | 評価研究部教授 | 評価研究部客員教授 |
| 15. 6. 1 | 喜 多 一 | 転 任 | 京都大学学術情報メディアセンター教授 | 評価研究部教授 |
| 15. 6. 1 | 齊 藤 貴 浩 | 昇 任 | 評価研究部助教授 | 評価研究部助手 |
| 【管理部長】 | | | | |
| 15. 2. 20 | 山 本 晃 | 配置換 | 文部科学省高等教育局私学部 私学行政課私学共済企画官 | 管理部長 |
| 15. 2. 20 | 栗 城 繁 夫 | 配置換 | 管理部長 | 文部科学省研究開発局海洋地球課 極域科学企画官 |
| 【管理部総務課】 | | | | |
| 15. 4. 1 | 壬 生 康 章 | 転 任 | 東京大学文学部事務長補佐 | 管理部総務課課長補佐 |
| 15. 4. 1 | 辻 直 人 | 転 任 | 文部科学省高等教育局学生課総務係長 | 管理部総務課総務係長 |
| 15. 4. 1 | 小 玉 清 | 転 任 | 東京学芸大学総務部広報調査課専門職員 | 管理部総務課人事係長 |
| 15. 4. 1 | 安 倍 武 司 | 昇 任 | 鹿児島工業高等専門学校庶務課長 | 管理部総務課企画係長 |
| 15. 4. 1 | 西 牧 英 男 | 昇 任 | 管理部総務課課長補佐 | 埼玉大学理学部学務係長 |
| 15. 4. 1 | 高 崎 淳 也 | 昇 任 | 管理部総務課総務係長 | 文部科学省高等教育局留学生課 |
| 15. 4. 1 | 関 口 哲 裕 | 昇 任 | 管理部総務課人事係長 | 信州大学総務部人事課給与第1係主任 |
| 15. 4. 1 | 手 塚 穰 治 | 昇 任 | 管理部総務課企画係長 | 東京学芸大学教育学部附属学校 世田谷地区事務係主任(中学校担当) |
| 15. 4. 1 | 大 西 賢 太 郎 | 昇 任 | 管理部総務課企画係主任 | 管理部総務課（企画係） |
| 15. 4. 1 | 長谷川 雅 世 | 転 任 | 管理部総務課（企画係） | 香川大学工学部 |
| 15. 5. 1 | 石 森 貴 之 | 採 用 | 管理部総務課（人事係） | |
| 15. 5. 1 | 沼 田 理 子 | 臨時的任用 | 管理部総務課（総務係） | |
| 【管理部会計課】 | | | | |
| 15. 4. 1 | 小 山 登 | 配置換 | メディア教育開発センター管理部会計課長 | 管理部会計課長 |
| 15. 4. 1 | 原 稔 継 | 昇 任 | 木更津工業高等専門学校庶務課長 | 管理部会計課総務係長 |
| 15. 4. 1 | 下 村 義 之 | 転 任 | 政策研究大学院大学会計課予算係長 | 管理部会計課経理係長 |
| 15. 4. 1 | 水 落 均 | 転 任 | 東京工業大学学務部留学生課専門職員 | 管理部会計課用度係長 |
| 15. 4. 1 | 池 田 洋 | 転 任 | 東京大学教養学部経理課用度掛主任 | 管理部会計課総務係主任 |
| 15. 4. 1 | 武 田 淳 一 | 転 任 | 横浜国立大学教育人間科学部 | 管理部会計課（用度係） |
| 15. 4. 1 | 岩 脇 勝 己 | 転 任 | 宇宙科学研究所管理部主計課 | 管理部会計課専門職員(施設担当)付 |
| 15. 4. 1 | 齊 藤 修 | 配置換 | 管理部会計課長 | 一橋大学経理部主計課長 |
| 15. 4. 1 | 佐々野 克 美 | 転 任 | 管理部会計課総務係長 | 広島大学経理部契約課契約第三係長 |
| 15. 4. 1 | 石 川 公 作 | 昇 任 | 管理部会計課経理係長 | 東京医科歯科大学医学部 管理課用度掛用度主任 |

| 月 日 | 氏 名 | 異 動 内 容 | | 異動前等の職名 |
|---------------------|-----------|---------|---------------------------------------|----------------------------------|
| 15. 4. 1 | 小 泉 貞 実 | 昇 任 | 管理部会計課用度係長 | 東京工業大学経理部主計課 監査掛監査主任 |
| 15. 4. 1 | 原 慎 一 | 昇 任 | 管理部会計課経理係主任 | 東京大学社会情報研究所 |
| 15. 4. 1 | 竹 内 賢 樹 | 転 任 | 管理部会計課（総務係） | 東北大学経理部契約室 |
| 15. 4. 1 | 古 畑 知 行 | 転 任 | 管理部会計課（用度係） | 国立天文台管理部会計課 |
| 【管理部情報課】 | | | | |
| 15. 4. 1 | 岡 松 良 三 | 配置換 | 三重大学経理部経理課長 | 管理部情報課長 |
| 15. 4. 1 | 黒 川 勝 雄 | 転 任 | 千葉大学医学部学務係長 | 管理部情報課評価情報係長 |
| 15. 4. 1 | 尾 曾 功 一 | 転 任 | 東京農工大学学生部教務課総務係長 | 管理部情報課大学学習情報係長 |
| 15. 4. 1 | 先 立 英 喜 | 転 任 | 九州大学経理部経理課給与掛長 | 管理部情報課ネットワーク管理係長 |
| 15. 4. 1 | 深 見 清 治 | 昇 任 | 管理部情報課長 | 独立行政法人教員研修センター事業部 研修事業第二課課長補佐 |
| 15. 4. 1 | 御 園 信 昭 | 転 任 | 管理部情報課評価情報係長 | 千葉大学経理部情報処理課専門職員 |
| 15. 4. 1 | 米 沢 谷 英 俊 | 昇 任 | 管理部情報課大学学習情報係長 | 東京農工大学経理部主計課総務係総務主任 |
| 15. 4. 1 | 多 久 島 智 | 昇 任 | 管理部情報課ネットワーク管理係主任 | 九州大学情報基盤センター |
| 【管理部学位審査課】 | | | | |
| 15. 4. 1 | 延 原 都 香 | 転 任 | 東京医科歯科大学経理部 主計課総務・管財掛長 | 管理部学位審査課認定審査係長 |
| 15. 4. 1 | 近 藤 正 仁 | 転 任 | 名古屋大学研究協力調整官研究協力課 専門職員(科学研究費補助金担当) | 管理部学位審査課学修審査第1係長 |
| 15. 4. 1 | 石 川 いずみ | 転 任 | 文部科学省生涯学習政策局政策課 地域政策室地域政策第1係長 | 管理部学位審査課認定課程係長 |
| 15. 4. 1 | 三 國 博 貴 | 転 任 | 横浜国立大学経理部資金協力課 | 管理部学位審査課（認定審査係） |
| 15. 4. 1 | 田 中 篤 子 | 転 任 | 文部科学省高等教育局留学生課 | 管理部学位審査課（学修審査第1係） |
| 15. 4. 1 | 小 向 正 彦 | 転 任 | 横浜国立大学経理部経理課 | 管理部学位審査課（認定課程係） |
| 15. 4. 1 | 早 川 太 一 | 昇 任 | 管理部学位審査課認定審査係長 | 東京医科歯科大学医学部学務課 学務第二掛学務主任 |
| 15. 4. 1 | 茅 間 利 行 | 配置換 | 管理部学位審査課学修審査第1係長 | 管理部学位審査課学修審査第2係長 |
| 15. 4. 1 | 井 上 勝 裕 | 昇 任 | 管理部学位審査課学修審査第2係長 | 京都工芸繊維大学教務課教務運用係主任 |
| 15. 4. 1 | 佐 藤 敏 徳 | 配置換 | 管理部学位審査課認定課程係長 | 評価事業部評価第2課教育評価第3係長 |
| 15. 4. 1 | 佐 藤 克 憲 | 配置換 | 管理部学位審査課（認定審査係） | 管理部総務課（企画係） |
| 15. 4. 1 | 小 枝 薫 | 配置換 | 管理部学位審査課（学修審査第1係） | 管理部学位審査課（学修審査第2係） |
| 15. 4. 1 | 千 葉 真 也 | 転 任 | 管理部学位審査課（学修審査第2係） | 千葉大学看護学部 |
| 15. 4. 1 | 鞍 元 玉 緒 | 配置換 | 管理部学位審査課（認定課程係） | 管理部学位審査課（学修審査第1係） |
| 【評価事業部長】 | | | | |
| 15. 4. 1 | 安 間 敏 雄 | 配置換 | 九州大学総務部長 | 評価事業部長 |
| 15. 4. 1 | 馬 場 剛 | 昇 任 | 評価事業部長 | 文部科学省高等教育局大学課課長補佐 |
| 【評価事業部企画主幹】 | | | | |
| 15. 4. 1 | 青 島 なな子 | 配置換 | 東京外国語大学研究協力課長 | 評価事業部企画主幹（企画調整室長） |
| 15. 4. 1 | 宮 崎 俊 明 | 採 用 | 評価事業部企画主幹 | 慶應義塾大学塾監局入学センター課長 |
| 15. 4. 1 | 中 野 正 昭 | 配置換 | 評価事業部企画主幹 | 評価事業部評価第2課長 |
| 【評価事業部評価第1課】 | | | | |
| 15. 4. 1 | 神 田 和 明 | 配置換 | 文部科学省高等教育局 医学教育課課長補佐 | 評価事業部評価第1課長 |
| 15. 4. 1 | 石 踊 保 広 | 転 任 | 鹿児島大学総務部企画室 専門職員(大学評価担当) | 評価事業部評価第1課全学評価第2係長 |
| 15. 4. 1 | 中 村 俊 晃 | 転 任 | 金沢大学経理部主計課予算第二係長 | 評価事業部評価第1課全学評価第3係長 |
| 15. 4. 1 | 山 内 和 哉 | 転 任 | 豊橋技術科学大学庶務課 専門職員(大学改革担当) | 評価事業部評価第1課全学評価第4係長 |

| 月 日 | 氏 名 | 異 動 内 容 | | 異動前等の職名 |
|---------------------|---------|---------|--------------------------------|---------------------------------------|
| 15. 4. 1 | 鍋 井 史 郎 | 転 任 | 香川大学工学部学務係主任 | 評価事業部評価第1課全学評価第2係主任 |
| 15. 4. 1 | 根 本 伸 一 | 転 任 | 千葉大学附属図書館情報管理課総務係主任 | 評価事業部評価第1課（全学評価第1係） |
| 15. 4. 1 | 妻 井 広 幸 | 転 任 | 宮崎大学学生部入試課 | 評価事業部評価第1課（全学評価第2係） |
| 15. 4. 1 | 川 瀬 成 彦 | 転 任 | 文部科学省生涯学習政策局調査企画課 | 評価事業部評価第1課（全学評価第2係） |
| 15. 4. 1 | 内 田 宗 利 | 転 任 | 岡山大学法人企画室（目標計画準備室） | 評価事業部評価第1課（全学評価第3係） |
| 15. 4. 1 | 菊 池 博 之 | 転 任 | 文部科学省高等教育局医学教育課 | 評価事業部評価第1課（全学評価第4係） |
| 15. 4. 1 | 田 中 久仁彦 | 昇 任 | 評価事業部評価第1課長 | 評価事業部評価第1課全学評価専門官 |
| 15. 4. 1 | 氏 次 健 | 昇 任 | 評価事業部評価第1課全学評価専門官 | 文部科学省高等教育局高等教育企画課 大学院設置審査係長 |
| 15. 4. 1 | 宮 脇 弘 善 | 昇 任 | 評価事業部評価第1課全学評価第1係長 | 評価事業部評価第1課全学評価第1係主任 |
| 15. 4. 1 | 前 迫 誠 | 昇 任 | 評価事業部評価第1課全学評価第2係長 | 鹿児島大学経理部主計課管財係主任 |
| 15. 4. 1 | 西 岡 和 男 | 昇 任 | 評価事業部評価第1課全学評価第3係長 | 北陸先端科学技術大学院大学 研究協力部学生課学生係教務主任 |
| 15. 4. 1 | 山 出 崇 | 配置換 | 評価事業部評価第1課企画調整係主任 | 評価事業部評価第3課研究評価第2係主任 |
| 15. 4. 1 | 小 嶋 隆 | 転 任 | 評価事業部評価第1課全学評価第1係主任 | 群馬大学工学部庶務係企画主任 |
| 15. 4. 1 | 黒 嶋 亮 | 配置換 | 評価事業部評価第1課全学評価第2係主任 | 評価事業部評価第1課全学評価第1係主任 |
| 15. 4. 1 | 久 保 正 哲 | 配置換 | 評価事業部評価第1課（企画調整係） | 評価事業部評価第2課（教育評価第1係） |
| 15. 4. 1 | 古 澤 洋 平 | 転 任 | 評価事業部評価第1課（企画調整係） | 熊本大学総務部人事課 |
| 15. 4. 1 | 西 多 亮 子 | 採 用 | 評価事業部評価第1課（全学評価第1係） | |
| 15. 4. 1 | 長 崎 英 助 | 配置換 | 評価事業部評価第1課（全学評価第2係） | 評価事業部評価第1課（全学評価第3係） |
| 15. 4. 1 | 藤 田 尚 弥 | 転 任 | 評価事業部評価第1課（全学評価第2係） | 鳥取大学医学部総務課 |
| 15. 4. 1 | 田 島 義 久 | 配置換 | 評価事業部評価第1課（全学評価第3係） | 評価事業部評価第1課（全学評価第4係） |
| 15. 4. 1 | 岩 間 優 介 | 配置換 | 評価事業部評価第1課（全学評価第4係） | 評価事業部評価第2課（教育評価第1係） |
| 15. 4. 1 | 井 成 浩 文 | 配置換 | 評価事業部評価第1課（全学評価第4係） | 評価事業部評価第3課（研究評価第1係） |
| 15. 4. 1 | 多 田 健太郎 | 併 任 | 文部科学省高等教育局高等教育企画課 | 評価事業部評価第1課（企画調整係） （企画調整室企画調整第1係） |
| 15. 5. 1 | 児 玉 崇 | 採 用 | 評価事業部評価第1課（全学評価第3係） | |
| 【評価事業部評価第2課】 | | | | |
| 15. 4. 1 | 佐 藤 哲 爾 | 転 任 | 東京大学研究協力部国際交流課課長補佐 | 評価事業部評価第2課課長補佐 |
| 15. 4. 1 | 小 野 耕 志 | 転 任 | 文部科学省高等教育局高等教育企画課 大学院設置審査係長 | 評価事業部評価第2課教育評価第1係長 |
| 15. 4. 1 | 三 浦 将 史 | 転 任 | 信州大学総務部企画室専門職員 （大学評価担当） | 評価事業部評価第2課教育評価第2係長 |
| 15. 4. 1 | 中 尾 淑 乃 | 昇 任 | 山口大学総務部人事課職員係長 | 評価事業部評価第2課教育評価第2係主任 |
| 15. 4. 1 | 門 田 明 | 転 任 | 政策研究大学院大学学術課 | 評価事業部評価第2課（教育評価第3係） |
| 15. 4. 1 | 河 本 雅 弘 | 昇 任 | 評価事業部評価第2課長 | 文部科学省高等教育局 私学部私学行政課法人係長 |
| 15. 4. 1 | 二 塚 伸 和 | 配置換 | 評価事業部評価第2課課長補佐 | 評価事業部評価第2課教育評価専門官 |
| 15. 4. 1 | 浅 見 宏 信 | 昇 任 | 評価事業部評価第2課教育評価専門官 | 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教育課程企画室調査係長 |
| 15. 4. 1 | 奥 田 泰 史 | 昇 任 | 評価事業部評価第2課教育評価第1係長 | 文部科学省高等教育局学生課大学入試室 |
| 15. 4. 1 | 若 山 美 穂 | 昇 任 | 評価事業部評価第2課教育評価第1係主任 | 評価事業部評価第2課（教育評価第1係） |
| 15. 4. 1 | 山 田 和 弘 | 昇 任 | 評価事業部評価第2課教育評価第2係長 | 東京工業大学すざかけ台地区 応用セラミックス研究所事務掛経理主任 |
| 15. 4. 1 | 佐 藤 浩 之 | 昇 任 | 評価事業部評価第2課教育評価第3係長 | 東京学芸大学学務部学務課総務係主任 |
| 15. 4. 1 | 坂 口 等 | 転 任 | 評価事業部評価第2課教育評価第4係長 | 豊橋技術科学大学教務部学務課専門職員 |
| 15. 4. 1 | 高 橋 美都子 | 配置換 | 評価事業部評価第2課（教育評価第1係） | 評価事業部評価第2課（教育評価第4係） （企画調整室企画調整第2係） |
| 15. 4. 1 | 久 慈 裕 | 配置換 | 評価事業部評価第2課（教育評価第1係） | 評価事業部評価第2課（教育評価第3係） |

| 月 日 | 氏 名 | 異 動 内 容 | | 異動前等の職名 |
|--------------------------|---------|---------|--------------------------------|--|
| 15. 4. 1 | 近 藤 隆 志 | 採 用 | 評価事業部評価第2課 (教育評価第1係) | |
| 15. 4. 1 | 佐 藤 雅 志 | 転 任 | 評価事業部評価第2課 (教育評価第3係) | 東京工業大学学務部入試課 |
| 15. 4. 1 | 千 島 孝 広 | 採 用 | 評価事業部評価第2課 (教育評価第4係) | |
| 15. 6. 1 | 佐 藤 浩 之 | 転 任 | 東京学芸大学教育学部附属学校部専門職員 | 評価事業部評価第2課教育評価第3係長 |
| 【評価事業部評価第3課】 | | | | |
| 15. 4. 1 | 大 前 勉 | 転 任 | 京都大学総務部人事課課長補佐 | 評価事業部評価第3課研究評価専門官 |
| 15. 4. 1 | 松 本 昌 三 | 転 任 | 文部科学省研究振興局学術研究助成課 企画室研究推進係長 | 評価事業部評価第3課研究評価第1係長 |
| 15. 4. 1 | 平 野 昌 男 | 転 任 | 横浜国立大学総務部企画課企画推進係長 | 評価事業部評価第3課研究評価第2係長 |
| 15. 4. 1 | 玉 木 衛 | 転 任 | 北海道大学総務部企画室専門職員 (点検・評価担当) | 評価事業部評価第3課研究評価第4係長 (評価調査室評価調査係長) |
| 15. 4. 1 | 砂 田 真 也 | 昇 任 | 京都工芸繊維大学施設課企画係長 | 評価事業部評価第3課研究評価第3係主任 |
| 15. 4. 1 | 関 部 順 一 | 転 任 | 熊本大学総務部企画広報室 | 評価事業部評価第3課 (研究評価第1係) |
| 15. 4. 1 | 渡 部 秀 明 | 転 任 | 東京工業大学総務部企画広報室 | 評価事業部評価第3課 (研究評価第4係) (評価調査室評価調査係) |
| 15. 4. 1 | 秋 保 聡 | 昇 任 | 評価事業部評価第3課研究評価専門官 | 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 社会奉仕活動振興係長 |
| 15. 4. 1 | 田 上 洋 | 昇 任 | 評価事業部評価第3課研究評価第1係長 | 文部科学省研究開発局地震調査研究課 |
| 15. 4. 1 | 菅 原 育 哉 | 昇 任 | 評価事業部評価第3課研究評価第2係長 | 北海道大学経理部主計課第二予算掛主任 |
| 15. 4. 1 | 山 口 登 之 | 配置換 | 評価事業部評価第3課研究評価第4係長 | 評価事業部評価第2課教育評価第4係長 |
| 15. 4. 1 | 古 牧 修 | 転 任 | 評価事業部評価第3課 (研究評価第1係) | 文部科学省高等教育局専門教育課 |
| 15. 4. 1 | 伊 藤 武 | 配置換 | 評価事業部評価第3課 (研究評価第2係) | 文部科学省高等教育局高等教育企画課併任 評価事業部評価第3課 (研究評価第4係) (評価調査室評価調査係) |
| 15. 4. 1 | 久 保 克 智 | 転 任 | 評価事業部評価第3課 (研究評価第2係) | 大分医科大学教務部入学主幹付 |
| 15. 4. 1 | 土 井 勇 生 | 転 任 | 評価事業部評価第3課 (研究評価第2係) | 北海道教育大学総務部人事課 |
| 15. 4. 1 | 山 手 孝 志 | 転 任 | 評価事業部評価第3課 (研究評価第4係) | 岡山大学経理部契約課 |
| 【評価事業部企画調整室】 | | | | |
| 15. 4. 1 | 中 野 正 昭 | 命 | 評価事業部企画調整室長 | |
| 15. 4. 1 | 氏 次 健 | 命 | 評価事業部企画調整室専門官 | |
| 15. 4. 1 | 山 出 崇 | 命 | 評価事業部企画調整室企画調整第2係主任 | |
| 15. 4. 1 | 齊 藤 昭 文 | 命 | 評価事業部企画調整室企画調整第3係主任 | |
| 15. 4. 1 | 久 保 正 哲 | 命 | 評価事業部企画調整室 (企画調整第1係) | |
| 15. 4. 1 | 古 澤 洋 平 | 命 | 評価事業部企画調整室 (企画調整第1係) | |
| 15. 4. 1 | 岩 間 優 介 | 命 | 評価事業部企画調整室 (企画調整第2係) | |
| 15. 4. 1 | 井 成 浩 文 | 命 | 評価事業部企画調整室 (企画調整第3係) | |
| 【評価事業部評価調査室】 | | | | |
| 15. 4. 1 | 山 口 登 之 | 命 | 評価事業部評価調査室評価調査係長 | 評価事業部企画調整室企画調整第2係長 |
| 15. 4. 1 | 山 手 孝 志 | 命 | 評価事業部評価調査室 (評価調査係) | |
| 【評価事業部企画広報室】 (新設) | | | | |
| 15. 4. 1 | 宮 崎 俊 明 | 命 | 評価事業部企画広報室長 | |
| 15. 4. 1 | 坂 口 等 | 命 | 評価事業部企画広報室企画広報係長 | |
| 15. 4. 1 | 若 山 美 穂 | 命 | 評価事業部企画広報室企画広報係主任 | |
| 15. 4. 1 | 織 田 隆 司 | 命 | 評価事業部企画広報室 (企画広報係) | |
| 15. 4. 1 | 中 山 範 靖 | 命 | 評価事業部企画広報室 (企画広報係) | |
| 15. 4. 1 | 千 島 孝 広 | 命 | 評価事業部企画広報室 (企画広報係) | |

○海外渡航一覧（平成15年1月～5月）

| 所 属 | 職 名 | 氏 名 | 目的国 | 目 的 | 期 間 |
|----------------|-------------|-------|--------------|--|-----------------------|
| 評 価 研 究 部 | 助 教 授 | 米澤 彰純 | イギリス アメリカ | 「今後の大学施設の管理に関する調査研究」に関する研究調査 | H15. 1. 8 ～ H15. 1.16 |
| 評 価 研 究 部 | 教 授 | 金口 恭久 | イギリス | 日本学術振興会ロンドン研究連絡センター主催シンポジウム出席 | H15. 1. 8 ～ H15. 1.18 |
| 評 価 研 究 部 | 助 手 | 齊藤 貴浩 | 香港・タイ | INQAAHE のアジア・太平洋フォーラムにて情報収集およびタイの遠隔高等教育に関する調査・情報収集 | H15. 1.16 ～ H15. 1.26 |
| 機 構 長 | | 木村 孟 | イギリス フランス | 高等教育に関する日英協定に関する打合せ ほか | H15. 1.18 ～ H15. 1.23 |
| 評 価 研 究 部 | 教 授 | 金口 恭久 | イギリス | 日本学術振興会ロンドン研究連絡センター運営 | H15. 1.29 ～ H15. 6.30 |
| 評 価 研 究 部 | 助 教 授 | 米澤 彰純 | イギリス | 「日、米、欧における国際的通用力を持つ大学評価システムの形成状況と日本の課題の研究」に関する資料収集 | H15. 2. 8 ～ H15. 2.20 |
| 学位審査研究部 | 助 教 授 | 吉川裕美子 | ド イ ツ | 「職業・専門教育と雇用・就職の関連構造に関する日独中比較研究」に関する研究協議・調査 | H15. 2. 9 ～ H15. 2.20 |
| 管理部会計課 | 課 長 | 小山 登 | イギリス | 英国内における大学評価の現状について、評価機関及び評価を受ける大学を調査 | H15. 2.10 ～ H15. 2.18 |
| 評価事業部 企画調整室 | 室 長 | 青島なな子 | イギリス | 英国内における大学評価の現状について、評価機関及び評価を受ける大学を調査 | H15. 2.10 ～ H15. 2.18 |
| 評価事業部 評価第3課 | 課 長 | 丸山 修一 | イギリス | 英国内における大学評価の現状について、評価機関及び評価を受ける大学を調査 | H15. 2.10 ～ H15. 2.18 |
| 評 価 研 究 部 | 教 授 | 舘 昭 | オランダ | 「日、米、欧における国際的通用力を持つ大学評価システムの形成状況と日本の課題の研究」に関して、オランダにおける大学評価システム形成動向の調査および研究打ち合わせ | H15. 2.15 ～ H15. 2.20 |
| 機 構 長 | | 木村 孟 | イギリス | 「新しいタイプの学校に関する調査研究」に関する関連機関への訪問および資料収集 | H15. 2.16 ～ H15. 2.19 |
| 評価事業部 評価第1課 | 全学評価 専門官 | 田中久仁彦 | 韓 国 | 韓国内における大学評価の現状について評価機関および評価を受ける大学を調査 | H15. 2.17 ～ H15. 2.21 |
| 評価事業部 評価第2課 | 課 長 | 中野 正昭 | 韓 国 | 韓国内における大学評価の現状について評価機関および評価を受ける大学を調査 | H15. 2.17 ～ H15. 2.21 |
| 評 価 研 究 部 | 助 教 授 | 米澤 彰純 | インドネシア | インドネシア高等教育セクターに関する調査およびワークショップ出席 | H15. 2.23 ～ H15. 2.27 |

| 所 属 | 職 名 | 氏 名 | 目的国 | 目 的 | 期 間 |
|-----------|-------|---------|---------------------------------|---|-----------------------|
| 学位審査研究部 | 助 教 授 | 宮 崎 和 光 | シンガポール | 「IT を利用した高等教育の単位累積制度と単位認定に関する研究」に関する研究調査 | H15. 2.24 ～ H15. 2.26 |
| 学位審査研究部 | 助 教 授 | 濱 中 義 隆 | シンガポール | 「IT を利用した高等教育の単位累積制度と単位認定に関する研究」に関する研究調査 | H15. 2.24 ～ H15. 2.26 |
| 学位審査研究部 | 助 教 授 | 森 利 枝 | アメリカ | 「IT を利用した高等教育の単位累積制度と単位認定に関する研究」に関する研究調査 | H15. 3. 3 ～ H15. 3. 9 |
| 評 価 研 究 部 | 助 手 | 林 隆 之 | アメリカ | 「日、米、欧における国際的通用力を持つ大学評価システムの形成状況と日本の課題の研究」に関する調査研究 | H15.3.14 ～ H15. 3.22 |
| 評 価 研 究 部 | 助 教 授 | 米 澤 彰 純 | モーリシャス | アフリカ学長会議出席および研究資料収集 | H15.3.14 ～ H15. 3.23 |
| 評 価 研 究 部 | 助 教 授 | 米 澤 彰 純 | フランス ルーマニア イギリス アイルランド | 「日、米、欧における国際的通用力を持つ大学評価システムの形成状況と日本の課題の研究」に関する調査研究 | H15. 4. 1 ～ H15. 4.18 |
| 機 構 長 | | 木 村 孟 | アイルランド | 高等教育品質保証機関国際ネットワーク大会にて発表 | H15.4.12 ～ H15. 4.18 |
| 評 価 研 究 部 | 教 授 | 館 昭 | アイルランド | 高等教育品質保証機関国際ネットワーク大会にて情報収集 | H15.4.13 ～ H15. 4.19 |
| 評 価 研 究 部 | 教 授 | 館 昭 | アメリカ | AIR フォーラムにて情報収集および研究打ち合わせ | H15.5.17 ～ H15. 5.23 |
| 評 価 研 究 部 | 教 授 | 徳 田 昌 則 | ロ シ ア | 10 th APAM 国際会議出席、技術者教育認証プログラム・理学教育プログラム調査 | H15.5.31 ～ H15. 6.11 |

「ご挨拶」

評価研究部教授

萩上 紘一



本年4月から客員教授に採用して頂き、6月から専任教授として勤務することになりました。この3月まで東京都立大学に勤務していましたが、初任が東京工業大学助手

でしたから、34年2ヶ月ぶりの国家公務員への復帰です。しかし、大学評価・学位授与機構は来年度法人化されることになっていますから、「東の間の国家公務員」ということになります。

私はこれまでいくつかの国立大学の外部評価、大学設置審議会の設置審査など大学を「評価する側」の仕事も経験してきましたが、基本的にはこの3月までは「評価される側」でしたから、攻守とところを変えたことになります。

機構には、これまで創設準備委員や評議員、在り方検討委員などとして関わりを持ってきましたので、「右も左も分からない世界」ではないと思っていましたが、中に入ってみて、「評価」は「する側」にとっても「される側」にとっても莫大なエネルギーを必要とする事業であることを改めて痛感しています。

「評価」は教育・研究活動の改善を目的として実施されるものですから、「評価に投入したエネルギー」を上回る改善効果がなければなりません。従って、「評価」自身の目的達成度に対する「評価」、即ち「評価」のコスト・パフォーマンスの検証が不可欠であると考えています。

機構の評価事業はこれまでは国立大学だけを対象にしてきましたが、14年度着手分から希望する公立大学も対象に加えることになり、現在9校の公立大学が評価を受けています。公立大学を評価する際には、設置者が多様であることに留意する必要があります。

ます。つまり、全ての国立大学が国という共通の設置者を持つのに対して、公立大学は原則として大学毎に設置者を異にしており、大学に対する考え方や姿勢が設置者毎に大きく異なるからです。地域の期待を担い住民の熱意に支えられて開学したにも拘わらず、開学から年月が経過し、首長が代替わりを重ねるうちに、大学の存在そのものに疑問を抱かれる例も生じてきます。また、例えば、「学生の就職支援」「留学生支援」などはどの公立大学でも可能な限りの努力をしていますが、そのために必要な人員の配置や予算措置などは設置者の姿勢によって大きく異なっているのが実情です。「改善を要する」との指摘を受けた場合の対応も、設置者によって大きな差異が生じるでしょう。更に、公立大学の設置者である都、道、府、県、市、一部事務組合には高等教育行政の専門家が存在しないことも「評価」に対する対応に大きな影響を及ぼすと考えられます。従って、公立大学は、「大学」と「設置者」とを「一体として」評価しなければ正当な評価は出来ません。国立大学は、法人化された暁には「認証評価」と「国立大学法人評価」が義務付けられることになっていますが、公立大学の場合は、法人化されるか否かに拘わらず、「設置者」を視野に入れた評価をしなければならぬと思います。

34年間の公立大学勤務と、長い間「評価される側」に身を置いた経験を活かして、コスト・パフォーマンスの高い評価の実現に貢献したいと思っています。

おぎうえ こういち 昭和16年生

平成15年3月まで東京都立大学総長

平成15年5月まで大学評価・学位授与機構評価研究部客員教授

平成15年6月より現職

専門：微分幾何学

「ご 挨拶」

評価研究部教授

木 村 靖 二



本年4月に機構の専任として赴任しました。もともと、それまでの1年半も機構の併任として人文学系評価の準備に関わり、また前任校の東大の定年延長などの諸事情から、あと一年だけ東大人

文社会系研究科の併任として学生指導に当たることとなりますので、まだ中途半端な状態が続いています。とはいえ、この異動がたまたま機構の小平新庁舎への移転と重なったことで、新たな気分で機構の仕事に臨む気構えをもつことができたように思います。

私の専門はドイツを中心とする近現代ヨーロッパの政治社会、政治文化史です。20世紀前半のヨーロッパには、現代を考察するうえで重要なさまざまな政治・経済・社会のテーマが凝集しています。二つの世界大戦を引き起こしたドイツはそのヨーロッパのいわば「悪役」ですが、第二次世界大戦後、その歴大な官庁公文書のほとんどが連合国に押収されてマイクロフィルムに収められ、歴史研究者に公開されたという点で、歴史学にはきわめて有り難い事例にもなっています。つまり、世界のどこにいても、そのマイクロフィルムさえ購入できれば、研究の材料である史料では最先端と同列の位置につけるわけです。というわけで、テーマと史料の魅力にひかれて、この分野に入りましたが、ここ10年ほどはヨーロッパの歴史の変容過程の分析にも関心を持っています。

ところで、肝心の大学評価については、機構に来るまで、他大学の外部評価委員や大学基準協会での評価委員、あるいは文科省大学視学委員などの経験しかなく、併任期間は同時に大学評価についての研修期間でもありました。私の担当する人文学系では、ごく最近になって一部で評価を活用しようとする機運があらわれましたが、評価システムが理系中心ではないかという不信感や懐疑はなお根強いものがあります。人文学研究はその中身が、社会科学的性格

が強い分野から、生命倫理のような学際的な分野まで多彩で複雑ですが、いずれにせよその多くは地味で、成果が出るまでに時間がかかる基礎・基盤研究で構成されているとあって良いでしょう。しかも、特化した研究者養成科目を除けば、その成果が教育として還元される際には、教養教育的なりべラールアーツというかたちになることが多く、研究と教育のギャップが大きなことも一つの特徴になっています。

人文学系に含まれる学問領域の特性に配慮しながら、それぞれの個性を伸ばすような評価を、というのはなかなか難しい注文かもしれませんが、そうした方向を進める上で、多少なりとも力となることができると考えています。ご教示とお力添えをお願いしておきます。

きむら せいじ 昭和18年生

平成15年3月まで東京大学人文社会系研究科教授

平成15年3月まで大学評価・学位授与機構評価研究部教授（併任）

平成15年4月より現職

専門：西洋史学（近現代ヨーロッパ史、近現代ドイツ史）

「ご 挨拶」

評価研究部教授

森 敏



日本の国立大学の理科学系の研究者は誰でも論文を専門誌に投稿して、その論文が受理されるまでのレフェリーとのやり取りのなかで、「お前の研究のどこがブレークスルーだ？」と絶えず脅迫さ

れており、独創性や先駆性や有用性に関しては日ごろから強く認識させられているはず。また一方では、科学研究費や省庁や民間の大型、小型の外部資金へ応募して採択の「可」「否」を判定されています。これに関しては自慢じゃないですが私自身もまさに連戦連敗の記録を誇って(?)いるものです。東大時代は、ほとんど一年の半分を応募書類の作成に費やされていました。ところで、これらの専門誌のレフェリーや研究費の評価者の判断基準の中には、世界標準(グローバルスタンダード)があるはず。すなわち「絶対評価」をどこかでやっています。ですから「なにをいまさら改めて個人に関する研究評価を『大学評価・学位授与機構』がやるのか?そんな無駄な準備をする時間を押し付けてくれるな!」というのが「機構」の評価を受けるほとんどの研究者の本心ではないかと思います。しかし「機構」がやる研究評価は「組織としての研究評価」で、その組織評価をやるためには、組織評価の構成要件のひとつである「個人の研究業績」を判定して集約する作業が必要であるというだけのことです。世に「本当の研究評価なんかできっこないよ、好きにやらせてくれよ。評価したからといって決している研究が生まれるわけじゃないんだよ」という研究者がおられます。というより、それが日本の大学の大部分の研究者の意見ではないでしょうか?それは一面で正しいのですが、誤解しておられる点もあるようにも思われます。過去数年の出版物の現時点での再評価はかなり可能です。しかしほとんど不可能なのは、“これから立ち上がりつつあるポテンシャルを秘めた萌芽的研究を見抜くこと”です。これを

評価して掬(すく)い上げる作業は実は至難の業です。これはある意味では「賭け」です。評価者にはある種の科学者としてのセンス(嗅覚)が要求されます。しかし「機構」の評価はそれをするわけでは全くありません。あくまで「自分のこれまで行った、すでに発表された研究」を研究者が自己評価したものを「機構」が再評価するという「実績主義」です。そこを明確にご理解していただく必要があるのではないかと思います。昨年度から「機構」の併任教授として東大大学院農学生命科学研究科とかけ持ちで「機構」での‘評価の裏方の実務’にかかわりながら、小生もやっと以上の「機構」の研究評価の仕組みを理解できるようになった次第です。しかし実は「機構」での評価の裏方業務をやりながらも、自分自身は、優れた萌芽的研究をするどく見抜ける名伯楽でありたい、と常に念じております。有望な萌芽的研究を見落さずに掬い上げることこそが「科学技術創造立国」のための素材と人材が構造的に発掘されていく所以と考えるからです。そういう目で、いつも周辺の研究を観察(鑑賞?)している次第です。

もり さとし 昭和16年生

平成15年3月まで東京大学農学生命科学研究科教授

平成15年3月まで大学評価・学位授与機構評価研究部教授(併任)

平成15年4月より現職

専門:植物分子生理学

「ご 挨拶」

評価研究部助手

野 澤 孝 之



本年4月より評価研究部の評価情報研究開発部門に助手として着任いたしました。着任以前は、東京工業大学の情報系の専攻で2002年の3月に学位を取得し、昨年度は京都産業大学にて実験経済

という分野の研究プロジェクトに特定研究員として参加しておりました。

私のもともとの専門はシステムの基礎論とでも申しましょうか。ふつうシステム論といいますと、たとえば情報システムとか社会システムといった具体的なシステムが与えられたもとの、その性質を調べより効率的なシステムを設計するという学問が想起されます。これに対して私の研究していたのは、システムという在り方そのものの起源です。そこでは、システムとその外部という区分が未定義である抽象的な力学モデルを対象に、その中からどんな原理がシステムという「ひとかたまり」を成立させ得るかを数理的な観点から探ってきました。この研究は、システムという対象をできるだけ観察者から切り離して独立に扱おうと試みた、理学的な色合いの強いものでした。

この研究テーマは私にとって非常に面白いものであり、今後も追求し続けていきたいと考えています。しかし他方で、この研究の方向一本槍では足りないものが出てくるのではないかと、対象と観察者を切り離すことを徹底するためには、逆に対象に積極的に働きかける研究の視点も備える必要があるのではないかと感慨を持ちはじめておりました。そのような私にとって、本機構が行う大学評価のための評価情報の研究に携わる機会を頂いたことは、たいへん幸運に恵まれたことであると思います。

大学評価は皆に納得のいく厳密なものである必要があることはもちろんですが、その根底には評価の営みを通じて大学をいかに活性化できるかという問題意識を欠くことができません。そして評価情報の

研究は、収集した情報をどう分析しその結果をどう提示することによって大学の個性的な発展をお手伝いできるかということで、まさに対象に積極的に働きかける研究となります。また都合の良いことにこの研究領域には、今まで行ってきた理学的な研究と共有できる「道具立て」が意外に多くあるようです。この共通の道具立てをもちまして、ブランコを漕ぐように対極的な研究の間を行き来する勢いで、両方向の研究を高めていきたいと欲張った思いを抱いております。

本機構には実社会に直面した研究活動をされている先生、理学的な分野を究めてこられた先生、そしてその両立を体現されている先生と多彩な先生方がおられ、大いに刺激を受けられる研究環境であると考えております。また本年度からの機構本部の移転にともない新設されました建物はきれいで設備が充実しており、着任早々からこのような立派な所で研究できることを大変幸せに感じています。

未熟者ではありますが、本機構の大学評価の理念を実現できるよう、力を尽くす所存です。また、機構のもう一本の柱である学位授与の方や、情報系の基盤整備等でも、少しでもお役に立てればと思います。

ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

のざわ たかゆき 昭和50年生

平成15年3月まで京都産業大学特定研究員

平成15年4月より現職

専門：複雑システム科学

転任にあたって

喜 多 一



転任の挨拶を機構ニュースに寄せるようにとの依頼の中で、専門分野を記入するように言われ困ってしまいました。

平成12年に改組されたばかりの大学評価・学位授与機構に着任するまでは、京都大学、東京工業大学でエネルギーシ

ステムの経済分析をやったり、ニューラルネットワークや生物の進化を模した計算手法を研究したりしていました。そのような中で、多分に偶然ですが、学科や専攻などの計算機や情報ネットワークのお世話をすることが多く、どうもそれが幸い（災い）して当機構に声をかけて頂いたような感があります。

機構では大学評価事業そのものに携わらせて頂くほかに、館先生にお誘い頂いて総合品質経営（TQM）など経営手法の勉強をしたり、情報系の先生方に手伝って頂いて情報技術で少しでも大学評価を支援できないかとシラバスの分析手法の研究を始めたりしました。全学テーマ別評価「研究連携」のお手伝いをしたことから、必要にせまられて産学連携などの勉強もしました。機構内の情報インフラの構築にあたっては、変化の激しい情報技術をフォローしながら、今、機構にとって必要な情報インフラとは何だろうかと考えてきたように思います。

昨年10月から併任し、本年6月に転任しました京都大学学術情報メディアセンターでは全学の教育用計算機システムのお世話をするとともに情報教育やそのためのシステムについての教育や研究に携わります。機構から大学に戻ったといっても、仕事は実務的なサービスと研究の2本柱であり、機構での仕事に近い感があります。現在、導入されている教育用計算機システムは全学に配置された1300台のパソコンと数万人のユーザを抱えており、これを相手に助手の先生方、技官や事務官の方々と苦闘の日々を過ごしております。何とかがんばって研究のための時間を作り出さなければ、という状態です。

こういう経歴ですので、どうも学問としての専門分野と言われると困ってしまうのですが、私自身にとっては、どの仕事も共通した側面をもつものとして捉えています。それは、複雑なものごとを「システム」として捉えて、それを創り出し、動かしていくことに関っていくということです。このことから専門分野は「システム工学」と書かせて頂きました。

さて、この3年間、「大学評価」と機構内の「情

報システム」とに並行して関ってきて面白い違いと類似性に気づきました。まず相違点ですが、大学評価は評価される大学や評価をお願いする委員など「人」を動かしてゆくシステムですが、「人」というのは、「言った通りには」動かないものです。ずいぶん苦労してマニュアルなどを書いてきたのですが、なかなかその通りには行きません。一方、かなり曖昧なものでも、適当に解釈して対応して頂けるということもしばしばあり救われることも多かったかと思えます。これに対して「情報システム」は主に「計算機」を動かしていくものですが、こちらは「言ったとおりにしか」動きません。もちろん、そういう意味でシステムを作ったものが予期した通りに動くはずなのですが、曖昧さが残っているとシステムは機能しなくなります。すべてを網羅的に明文化するという作業はそれはそれで大変なものです。

このように両者は大きく異なっているのですが、むしろ共通点の方が大きいかもしれません。それは、どちらも、複雑な手順を明文化することにより意図した機能を有するシステムとして組み上げていくという点です。そして、このような複雑なシステムは決して最初から上手く動くものではありません。経験を経て手直しを繰り返しながら仕上げて行くことが避けられません。着手した当初は人々から「何でこんなもの」とお叱りばかりを受けます。一方、システムとして仕上がって来る頃には、人々にとってもはや「当たり前」のシステムになっていて、それまでの苦労が感謝されることはあまりなく、たまに失敗をしでかすとやはり叱られます。最近では「そういうものだ」と悟って仕事をすべきなんだろうなと考えていますが、こういう仕事で元気づけられるのは、同じような仕事に携わるピアからの評価を得たときでしょう。ピアレビューの重要性はこういうところにも窺えます。

転任は致しましたが、機構にも客員教授として関わらせて頂けるようご配慮頂きました。大学側の視点から、学位授与や大学評価について気づくこともあるかもしれません。今後も少しでも機構のお役に立てればと思っております。

きた はじめ 昭和34年生

平成15年5月まで大学評価・学位授与機構評価研究部教授

平成15年6月より京都大学学術情報メディアセンター教授

専門：システム工学

編集後記

- ◇ 機構の新施設が東京都小平市に竣工し、ようやく機構として1つにまとまりました。ここに、新施設へ移転後最初の「機構ニュース」(第30号)をお届けします。
- ◇ 平成15年5月8日に小平新施設竣工記念式典が挙行されました。大勢の方々が施設をまわって見てくださいましたので、日頃静かな機構もこの日ばかりは賑わいました。
- ◇ 平成15年5月26日には、遠山文部科学大臣が機構を訪問されました。
- ◇ 平成15年4月30日からは、学位授与関係の専門委員会も小平地区で開催しております。
- ◇ 平成13年度の大学評価結果がまとまったこと、平成14年度の大学評価実施基本計画が紹介されております。
- ◇ 学位授与事業では、平成14年10月期申請の1,802人に学位が授与され、課程認定(各省庁大学校)修了者に対する学位授与も行われました。認定専攻科関係では、新たに24専攻が認定されています。
- ◇ 平成15年2月14日の学位審査会で「言語聴覚障害学」の単位修得の専攻基準が制定されました。
- ◇ 大学評価に関する各種セミナー、学位審査研究部の「JABEEに関する研究会」の様子も紹介されております。
- ◇ 研究紀要「大学評価」第1号・第2号が発行されました。
- ◇ 荻上絃一教授、木村靖二教授、森敏教授、野澤孝之助手から就任のご挨拶をいただき、喜多一教授から転任の御挨拶をいただきました。
- ◇ 国立大学と同様、当機構も独立法人化をひかえております。今後ともご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

(Y.T.)

〈機構全景〉



編 集 大学評価・学位授与機構広報委員会

連絡先 〒187-8587

東京都小平市学園西町1-29-1

大学評価・学位授与機構管理部総務課

電話/Fax 042-353-1516/1552

ホームページアドレス <http://www.niad.ac.jp/>

印 刷 (有) 創 文 社

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-4-1

電話 03-3491-8321